

第10回総務文教常任委員会会議録

- 1 開会日時 平成29年10月17日（火）午前10時0分
- 2 閉会日時 平成29年10月17日（火）午後0時39分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
1 番 永徳 省二君 7 番 大口 浩志君 11 番 松田 勲君
12 番 北川 勝義君 16 番 下山 哲司君 17 番 実盛 祥五君
18 番 金谷 文則君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
市 長 友實 武則君 副 市 長 倉迫 明君
教 育 長 内田 恵子君 総合政策部長 作間 正浩君
総合政策部参与兼
吉井支所長 徳光 哲也君 総 務 部 長 前田 正之君
財 務 部 長 直原 平君 建設事業部長 水原 昌彦君
建設事業部参与 加藤 孝志君 教 育 次 長 藤井 和彦君
赤坂支所長兼
市民生活課長 黒田 靖之君 熊山支所長兼
市民生活部参与 入矢五和夫君
消防本部消防長 矢部 敬史君 秘書企画課長 小引 千賀君
まち・ひと・しごと
創 生 課 長 遠藤 健一君 総 務 課 長 原田 光治君
くらし安全課長 中川 裕敏君 財 政 課 長 藤原 義昭君
管 財 課 長 小坂 憲広君 税 務 課 長 末本 勝則君
収納対策課長 土井 常男君 教育総務課長 安本 典生君
学校教育課長 松井 啓子君 社会教育課長兼
スポーツ振興課長 土井 道夫君
中央図書館長 三宅 康栄君 中央学校給食センター
所 長 久山 勝美君
消 防 本 部 井元 官史君
消防総務課長
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 奥田 吉男君 主 事 松尾 康平君
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（北川勝義君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから第10回総務文教常任委員会を開会します。

その前に一言申し上げます。

総務部長のほうから連絡があったんですけど、専決と今先ほど開会の前に一言、議長言うたん、そんなん知らんが、聞かんでというて、雑談やっ取りましたが、次の議会は12月が議会、12月が定例会です。どこでも隣の美作市、それから和気町、臨時議会をちよくちよくしてやっ取ります、大事なことは。赤磐市は専決をやるということで、内容は私はよく存じてないんで聞いたら、どうも納得いかないような感じ。それで、先ほど議長、市長とよく相談してやってくれということをお願いしたかったんで、担当部局であろうとなかろうとなかったらわからずに前進みだけじゃったら非常に困るというのが、我々、なら議会は要らないと、定例議会だけでいい、これからは過去も含めてこれから未来へ向けて絶対臨時議会は開かないというんじゃない結構です。議会を開くいとまはないということは、開く気があったらいつでもできます。国会でもできます。余り無責任なことを両方の市長、議長、無責任なことやってもろうて責任をこっちに持ってきていただきたくないという気持ちがあります。しかし、どうしてもこういうことやらにやいけないんだったら、こういうことをやらなければいけないという説明をいただきたいということが言いたかったんで、担当であるとかないとかは別ですよそでやるのは、よその委員会で説明したから済んだというような話ではないと思っております。

それからもう1点、きょう出ておりますが、結婚支援の取り組みを当初予算で説明しておるから委員会決めたからこのメンバー、メンバー決めるの承認しておりません。メンバー決めるこうなりました、こういう人に出したいとメンバーのことに人選に口を挟むつもりはありません。しかしながら、事前にこういうこともありますということを相談してくれるのが親切であるんじゃないかと。当初予算でやっております、当初予算いつですか、2月です。2月の選挙前のごたごたのときに忙しいときに2月には当初予算やっ取るからわかりますって、そんな不親切はないと思うんで、これからは気をつけていただきたい。私は特に永徳副委員長もそうですけど、執行部のほうからいつ委員会をしたいと言うたら嫌と言うたことありません。いつでも合わせとります。そういうこともあるんでええときだけ頼むんじゃないで気をつけていただきたいというのが私の考えです。

それでは、開会に先立ち、友實市長より御挨拶をいただきたいと思います。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さんおはようございます。

本日は総務文教常任委員会、第10回でございますけども、お開きいただきまして、ありがとうございます。

雨模様が続いております。一日も早く天候回復することをお祈りしながらきょうの御挨拶とさせていただきます。なお、きょうの協議事項でございますけども、事業の進捗状況、そしてその他の項目、数項目を上げさせていただこうと考えております。何とぞよろしく御審議お願いいたします。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

それでは、これから協議事項に入りたいと思います。

執行部から説明願いたいと思います。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 小引課長。

○秘書企画課長（小引千賀君） それでは、総合政策部の資料1ページをごらんください。

赤磐市の歌プロモーションビデオについてでございます。

市の歌への愛着を深め、市の魅力発信にもつながるものとして、10月1日から3日までにかけて市の歌のプロモーションビデオの撮影を行いました。市内小学校や観光地など全18カ所で行いました撮影には、小学校9校やコーラスグループなどの団体、個人など3歳から70代まで3日間で延べ1,433人の市民の皆様に参加していただきました。現在編集作業を行っていただいております。年内には完成予定です。完成後は市のホームページや各種イベントでの上映を予定しております。

引き続きまして、地球史研究所オープニング・フェスタについてでございます。

資料はございません。先週10月14日土曜日に吉井会館と吉井支所駐車場におきましてNPO法人地球年代学ネットワークと赤磐市との共催で開催いたしました地球史研究所開設記念行事オープニング・フェスタ in 吉井におきましては、御多用の中来賓として御臨席を賜りました議員の皆様、またさらに議長から御祝辞を頂戴いたしましてまことにありがとうございます。この場をおかりして改めて御礼申し上げます。

さて、吉井地域の区長様を初め地域の皆様、また市内外を初め、もとより国外からも研究者の方々の御来場をいただきまして式典と記念講演には約70名、交流広場や科学体験、地域の皆様を中心とした出店などには家族連れも多くお越しいただき一日を通して約150名の御来場がございましたので、御報告いたします。

なお、赤磐市で講演をいたしました翌日の15日日曜日に岡山国際交流センターで開催されましたオープニング記念国際会議 in 岡山につきましては、地質学の専門家を中心に約90名の参加があり、終日にわたって研究発表や議論が行われ、大変盛況だったとの連絡が地球年代学ネットワークからございましたので、あわせて御報告いたします。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 遠藤課長、どうぞ。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） それでは、引き続きまして資料の2ページからごらんください。

山陽団地の活性化につきましては、これまでも取り組みを進めております。事業の進捗状況ということでございますので、簡単に報告をさせていただきます。

第4回の有識者会議をせんだって11日に開催をさせていただきました。主な内容といたしましては、第1回目から第3回目までの本有識者会議で議論をいただきました課題を取りまとめております。本日別添でその資料をつけさせていただいておりますので、ごらんください。

それから、先進事例の勉強ということでアドバイザーであります森ビル都市企画株式会社並びにJFEエンジニアリング株式会社、また有志で清水建設株式会社より、こうしたオールドニュータウン問題についての先進的な事例の紹介をいただいております。

下段のほうに(3)番で、有識者会議の有識者の皆さん並びにアドバイザーなどの皆さんからの主な意見といたしまして、全国レベルのプレーヤーが活動できる場は大都市などに限定されるため、ここすなわち山陽団地では住民の相互扶助でまちづくりを行っていくスタイルになるのではないかとありますとか、先進的なまちづくりを行うためには自動運転技術を活用するなど駅や、次ページに移ります、1枚おはぐりいただきまして、市外へのアクセスを強化してはどうか、また町を変化させるための医療モール、教育モールのように生活に資する核となる施設の整備を行うと起爆剤となり町の印象が変わるといような御意見を賜っております。

今後のスケジュールでございますが、また第5回ということで11月の下旬ごろにこの先進事例などを踏まえながら目指すべき姿や具体的な施策について協議を行わせていただきたいと思いますと考えております。

続きまして、4ページをごらんください。

委員長に御意見をいただきまして、大変私も説明が至らず申しわけないと思っております。おわびを申し上げながら事業進捗の状況報告とさせていただきます。

結婚支援の取り組みについてでございます。

今年度内閣府のほうから地域少子化対策重点推進交付金というものをお願いしております。この交付金の事業の中で、赤磐市民が結婚や出産に結びつくように総合的な結婚支援の実施計画を策定し、少子化の解消となる施策を段階的に実施するための助言を求めることを目的として検討会を立ち上げております。構成員はその表にあります環太平洋大学の先生以下6名の方にお集まりをいただき、10月3日に第1回の会議をさせていただきました。この検討会で御議論いただきまして、(2)番、中段でございます、赤磐市内のお若い方に向けてアンケートを実施するということがこの内閣府の交付金の事業の中で決定をいただいておりますので、このことについて進めていきたいということでございます。

また、アンケートにつきましては今作成中ございまして、その主な調査項目のみそこへ列挙させていただいておりますが、全国調査の質問も取り入れて全国調査との比較を可能にすな

がら属性でありますとか結婚観、結婚活動、5ページに参ります、子供について、生活スタイルについて等の設問を今考えておるところでございます。

5ページにこの検討会の立ち上げにつきましての新聞記事を掲載させていただいております。

6ページに参ります。

おかやま縁むすびネットについてでございます。

本日別添でチラシをつけさせていただいております。

岡山県が運営しております結婚支援システムおかやま縁むすびネットということで、会員登録の手続を受け付けておりまして、若者の出会いを促進しております。現在岡山県全体では男性が367人、女性が391人の登録状況でございまして、お話を伺いましたところ十数組がもう出会いの場をお引き合わせということで予定をされておるといふふうに伺っております。市のほうも全面的に協力をさせていただきたいということで、このたび(3)番で赤磐市の特設会場で10月22日にこの中央公民館のほうで予定をさせていただいております、もう予約でいっぱいでございます。

中段になります。

その他のイベントでございます。

今後近いところでは、(1)番の片鉄ロマン街道出会いときめき恋めぐりというイベントを予定しております。これは、別添にチラシを入れさせていただいております。片上鉄道沿線地域活性化対策協議会ということで、備前市、和気町、美咲町さんと共催するものでございます。

それから、12月10日には赤磐市の結婚推進協議会のほうでイベントを予定しております。

簡単ですが、進捗状況につきましては以上でございます。

それから、申しわけございません。チラシの一番最後に片鉄ロマン街道のこの婚活のイベントと同日にふれあいサイクリング大会のほうも予定をしております。

簡単ですが報告をさせていただきました。

総合政策部は以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 続いて。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 総務部くらし安全課から報告をさせていただきます。

総務部資料をごらんください。

表紙をはぐってもらいますと1枚チラシが入っていると思います。そのチラシについての御案内でございます。

昨年の12月にAMD Aと締結した連携協力に関する協定により現在赤磐市の職員が1名AM

DAに派遣されております。現在職務は南海トラフ災害対応プラットフォームの業務を主に行っており、その活動報告等をプログラムにも組み込んでおります。日時は11月19日の日曜日午後1時半から、場所は桜が丘いきいき交流センターの大ホールとなっております。御多用のところではございますが、御来場いただけたらと思ひまして案内をさせていただきました。

以上、総務部からのお知らせです。

○財政課長（藤原義昭君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○財政課長（藤原義昭君） 財政課からは公の施設に関する使用料の設定基準について御説明いたします。

資料は財務部資料の別添資料のほうをごらんください。

第3次赤磐市行財政改革大綱を確実に推進するために全庁的に実施計画に沿って進めてまいっております。第3次大綱の5つの主要施策の1つ、受益者負担の適正化では施設使用料の設定基準を作成し、見直し方法について明確化した上で全施設の使用料の見直し作業を行うこととしております。この施策を行うに当たりまして、施設使用料の設定基準について行革審議会に諮問し議論していただき、先般答申をいただいたところでございます。

資料2ページは設定基準の必要性、考え方となっております。

赤磐市では合併して以来各施設において見直しを実施してまいりましたが、統一的な基準が設定されておりませんでした。公平性、公正性を確保するため統一的な基準を設定し全庁的な見直しを進めていくこととしております。

4ページから8ページにかけては、使用料の基準額の算出方法を載せております。

次に、9ページをごらんください。

上段1、使用料の改定基本方針をごらんください。

算出方法で出された額が周辺自治体の類似施設より高額になる場合や民間企業の営利事業を圧迫する場合は改定額を調整することで使用料を算出することとしております。近隣自治体の状況や類似施設の状況など施設間の公平性や立地の条件などさまざまな要因を十分に検証した上で、根拠を明らかにして使用料を算出することとしております。

ページは4ページに戻っていただきたいと思っております。

4の適用の時期でございます。

平成31年4月を予定しておりますが、遅くとも平成32年度末までには見直しを行うこととしております。

財政課からは以上です。

○熊山支所長兼市民生活部参与（入矢五和夫君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、支所長。

○熊山支所長兼市民生活部参与（入矢五和夫君） 財務部の資料1ページをごらんください。

熊山工業団地内における公有財産の売却について御説明をさせていただきます。

この小瀬木にあります未利用の公有財産につきまして、隣接するテイカ株式会社のほうから買い受けの希望がございました。市としましては、市の未利用財産利活用基本方針に基づきまして随意契約により売却を考えております。

今回の土地ですけれども、3ページ目に写真をおつけさせていただいております。テイカ株式会社熊山工場が中心にございますけれども、その南側に白くしてあって赤い斜線をつけさせていただいておりますこの土地につきまして売却を考えております。面積につきましては、729平米となっております。

こちらなんですけれども、3番の経過及び売却理由としまして、テイカの熊山工場では平成30年の春ごろに施設の増設を計画されております。増設を行った場合に工場立地法で定められた緑地面積、こちらのほうが不足するということになりますので、隣接する市所有の土地を買い受けて緑地として整備を進めたいという要望がございました。

この土地につきましては、平成15年に岡山県のほうから当時の熊山町に無償譲渡されたものでございます。実際には工業用の区画の残地ということで未利用でございます。市で毎年2回の除草管理をしながら現在に至っております。

土地の売却につきましては、公平性の観点から競争入札にすることが望ましいとは考えておりますけれども、本件につきましては市の未利用財産の利活用基本方針に基づきまして次の理由によりテイカ株式会社を相手方として随意契約により売却したいと考えています。その理由ですけれども、この土地が2方を市道に囲まれております三角地ということで隣接しているのはテイカの熊山工場だけであるということ。それから、新たな工業用地として単体で企業誘致を進めるには敷地面積が小さく困難ということで、この土地につきましてはこの土地に接しているテイカの熊山工場と一体的に利用されることが最も効率的であるという判断によりまして随意契約により売却を考えております。

今後のスケジュールとしましては、きょう報告させていただいて11月中旬ぐらいに売買契約を結び今年度中に登記の手続きができたならというふうに考えております。

それから、参考ですけれども、価格につきましてはテイカの工場自体が県の地価調査基準地ということでございます。この額が参考ですけれども平米当たり1万3,700円ということになっております。こちらを基本に交渉を進めたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上、報告を終わります。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○教育総務課長（安本典生君） それでは、教育委員会資料のほうをお願いいたします。

まず、教育総務課から教育委員会事務点検・評価書について報告をさせていただきます。

委員の皆様にはお手元に別冊で評価書を御用意しておりますので、ごらんいただきたいと思
います。

18ページのほうをお願いいたします。

(15)調理及び配送業務の一部民間委託の検討についてということで、先月9月の総務文教常
任委員会で評価書の記載で一部誤解を招く表現がありました。一部民間委託が決まったかのよ
うな表現となっておりますが、調査研究を進めていくという内容で訂正のほうさせていただ
いております。まことに申しわけありませんでした。

評価書については以上でございます。

○学校教育課長（松井啓子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） それでは、学校教育課から平成29年度全国学力・学習状況調
査について御説明をいたします。

資料の1ページをごらんください。

前回の委員会でも御報告をいたしました。本調査は4月18日に行われ小学校6年生
414人、中学校3年生444人が調査を受けました。本調査の目的ですが、児童・生徒の学力の状
況を把握し指導に生かすことです。現在各学校では、学力改善プランを作成し児童・生徒の実
態に応じて学力向上のための取り組みを進めているところです。今年度から県教育委員会が発
表した結果として平均正答率の数値が整数で示されておりますが、この目的に沿って過度な順
位づけを避けるための公表方法としたと聞いております。そのことを踏まえて、ここでは市全
体の大まかな結果についてお伝えをいたします。

まず1番、赤磐市の結果の概要をごらんください。

小学校では教科等により差がありますが、全国平均正答率と比較して1から5ポイン
ト程度下回っております。中学校ではA問題、基礎の問題を中心に全国平均正答率をわずか
ですが上回っております。また、B問題、活用の問題では1ポイントから3ポイント下回って
おります。

続いて、2番の同一児童・生徒による経年変化の記録をごらんください。

まず、上のグラフが現小学校6年生のものです。小学校4年生、5年生では県教育委員会
が実施した学力定着状況たしかめテストの結果を示しています。たしかめテストとは、過去の全
国の学力・学習状況調査の問題を県教委がピックアップしたものを問題としまして、大体毎年
10月から11月に実施をされております。これを見ると、国語、算数のA問題、B問題ともに全
国平均正答率との差は縮まっております。また、下のグラフは中学校3年生のもので、こちら
については小学校6年生の全国学力調査の結果と中学校2年生で実施した学力定着状況たしか
めテストの結果から変化を示しています。昨年度の国語Bで大きく落ち込みはありましたが、
小学校6年生時から全ての教科で伸びが見られます。

これらのことから、著しい伸びとはなっておりませんが、これまで市として取り組んできた小学校35人以下学級による落ちついた学習環境づくりや学習支援員や大学生ボランティアによる個別支援、また補充学習や産官学連携協力事業等による基礎基本の徹底については一定の成果が見られていると考えます。今後は全国平均正答率に近づいてきた現状を踏まえて、学校での指導法や市としての施策について検討してまいります。

簡単ですが、以上で報告終わります。

○中央図書館長（三宅康栄君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、館長。

○中央図書館長（三宅康栄君） 資料は2ページのほうお願いいたします。

赤磐市立図書館からサマータイムの実施につきまして御報告させていただきます。

サマータイム期間中は全ての図書館で開館時間を1時間早め9時から、中央図書館のみ夕方の閉館は1時間おくらせ7時までといたしました。期間につきましては、6月の利用の状況の確認をしたく昨年度同様6月から8月の3カ月で実施させていただきました。

今回実施結果を期間中の来館者数と時間帯別の貸出者数により報告させていただきます。

まず、来館者数ですが、資料2ページ中段より少し上になりますが、実施期間中の月別の来館者数、それから括弧書きで延長時間帯の来館者数をお示ししております。中央図書館は延長時間帯の来館者を午前9時から10時と午後6時から7時に分けて書かせていただいております。3カ月とも午前の来館者数のほうが多いのを見ていただけるかと思えます。また、その下の棒グラフですが、こちらは中央図書館の状況ですが、色の薄い棒は通常開館時間10時から午後6時の時間帯の来館者、色の濃い部分が延長時間帯を利用した利用者の数になっております。下に参考といたしまして開館日数の一覧を入れておりますが、休館日の日数により来館者数は変わってしまうことから一概には言えないのですが、おおむね延長時間帯の利用者はふえております。また、下の表のように地区図書館もほぼ同様の状況で、3年間の傾向として利用がふえております。

資料3ページのほうをお願いいたします。

時間帯別の貸出利用者数の比較です。

中央図書館では午前、午後ともに大きな貸出利用者数の差はありませんが、夕方のほうが若干多い状況です。午前中の延長部分の来館者は貸出利用よりも調べ物や雑誌、新聞の閲覧などでの来館が多かったものと判断しております。地区館の状況もそれぞれ時間帯別の貸出者数をグラフにしておりますので、ごらんください。

また、その資料3ページからはそれぞれの館の延長時間帯の利用率を開始の年から平均値で入れております。あわせてごらんください。

結果といたしまして、地区図書館でもサマータイムによる開館時間の延長が少しずつですが認知され利用に結びついております。また、6月の利用につきましておおむね利用が伸びてい

ることから、6月のサマータイムも必要とされていると判断いたしました。なお、このサマータイムにつきましては、延長時間の利用率が着実に上がってきているこの現実から3年間の試行の結果を受け、来年度からの本格実施について図書館協議会へも御相談しながら決定していきたいと考えております。

以上、サマータイムについての報告とさせていただきます。

済みません。あわせてもう1点図書館から。

本日お手元に岡山連携中枢都市圏における図書の相互貸し出しにつきまして資料を置かせていただいております。前回のこの会で11月からの実施の予定であることを報告させていただきました。こちら、11月1日からいよいよスタートすることになりました。お手元にその資料を今回置かせていただいております。委員の皆様におかれましても機会がございましたら連携市町の図書館をぜひ御利用ください。

図書館からの御報告は以上です。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） それでは、消防本部より平成29年度秋季火災予防運動行事についての御説明をさせていただきたいと思っております。

資料1 ページをお開きください。

本年度も11月9日から11月15日の1週間の間、「火の用心ことばを形に習慣に」を統一防火標語に全国で火災予防運動が展開されます。当消防本部におきましても資料の2枚目の裏表を見ていただければと思います。16事業を展開する予定となっております。

重立った事業について御説明のほうさせていただきます。

2枚目のNo.1番の幼年消防クラブ員の防火パレードを御説明させていただきます。

このパレードは、山陽桜保育園の園児さんに火災予防運動期間の初日に防火パレードを実施していただいて広く住民に火災予防を呼びかける事業でございます。山陽桜保育園からゆめタウン山陽店から最終場所が赤磐市役所、こちらの前で園児のかわいい鼓笛の演奏をもとに火災予防、火災の撲滅を子供たちが訴えるといったところでかわいい事業となっております。お時間等ございましたら応援のほうよろしくお願ひしたいと思っております。

続きまして、No.6番目のふれあい消防フェス、ことし初めて開催する事業でございます。11月5日の日曜日、時間は10時から13時の間、場所は消防本部で実施予定となっております。この事業につきましては、消防署の半日公開をさせていただいて消防行政の御理解と幼年期の子供さんたちに消防の消防本部といったところをどういったところでこんなことをしてるんだよっていったところを見ていただいて、消防行政を広く住民の方に御理解をいただくという事業となっております。

一番最後が、パンフレットになってます。このような内容で実施のほう本年度から予定とさ

させていただきます。ぜひお時間があるときには御参加していただければと考えております。よろしくお願ひします。

それと、本日第28回赤磐市消火技術訓練大会がふれあい公園で開催されております。本日早朝より足元の悪い中、金谷議長、友實市長におかれましては早朝より御参加のほういただき大変ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） 案内がなかったらわからんわな。何を言よんなら。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） 本年度は消火器の取り扱いの部門で男子の部としまして11チーム、女子の部として8チーム、ことしから新しく始めました男女ペアの部が8チームの合計27チームの御参加をいただいて現在大会のほう実施しております。この事業におきましては、先月の委員会のほうで御案内させていただくところが本意でございましたけれども、報告がおくれましたことをおわび申し上げます。

消防総務課からは以上です。

○委員長（北川勝義君） 執行部からの説明が終わりました。

どこのところからでも結構ですから、説明について委員さんから質疑がありましたら受けたいと思います。

ちょっと皆さん考えようるけん、その前に僕が言いますわ。

11月19日のワインフェストがあるときにAMD Aの赤磐消防防災国際フォーラムといういき交流センターでやる、菅波さんと友實市長が語るというんで、そりゃええんじゃけど、こういうことやるときに時間をぶつけるようなことばあしちやいけん。何遍同じことを言ようると思うん。聞きょうらんのんじゃろうか。これ赤磐市の3大イベントか4大イベントでワインフェストとかいろいろやっていくときに、ふるさとまつりやるとかというたりするときに何でもこういう重ねたことばあするんで、同じことばあ。それが5日でもなんじゃ。子育て後援会が中央公民館であるときに時間が違うけど、ふれあい消防フェスを初めてすんじゃというて、初めてすんじゃったら先言うてくれえ。あんたらだけで勝手に決めて、これから赤磐市、執行部だけで勝手に何でもすりゃえんじゃ、勝手にやっってくださいよ、さっきの専決と一緒に。どうも合点いかんのんじゃ。あんたら口出すな言うんじゃろ、口出ささんようにすりゃええがな。やり方おかしいよ、おめえ。特に2期目になって友實市政のあり方が、執行部は何を考えとんかわからん。議長も先ほど怒りょうた、憤慨しとる、憤慨したら言うてくれりゃええ、議長が音頭をとってやらにゃあ、何を言いてえならとこっちは腹立っとんじゃ。それで、あえて言わせてもらやあという気持ちがあつたん。

それから、順番で人が言う前に言いますが、とりあえず一番最初に聞かせてほしいのは財務部の工業団地の土地の売却について、何で熊山支所長が説明すんな。熊山支所長が例えば参事とか何かなつとんか、待て、おめえ、そういなこと言ようらん、そねえなつとんか。財務のほうやらにゃおえんのんじゃねんか、やりようるときには説明して。めいめいの支所で対応す

る話か。やり方がおかしい。ええときにはわしらがやる、悪いときにはそっちがせいとか、これどういうやり方。これからは全部支所に用地買収があったら各支所の担当で全部やるんじゃない、これからは。その次のときにはあんたらのやりてえときは、ええときはリース、ええときは購入とか、こうやっていくわけ、そういうことで、こういう根拠があつてこういうことじゃからリース契約させていただくんじゃとか、こういう随契、これ随契についてはどうこう言よんじゃねえよ、随意契約この場所でいうたらテイカがついとんじゃからテイカにしてあげるべきじゃと思うし、ほかのところを買われるとか買われんじゃのうて、市長初め各執行部のほう相談させてもらうたらテイカがひつついとんでこの条件の言われたとおりに、支所長が言われた2方を市道に囲まれたということでやってあげりゃええと思うん。それで、1万3,700円平米当たりのことももうちょっとわかるように説明してほしかったん、もう少しな。せえで、これやりますということだけの報告で、おめえ、報告事項か、これからする。相談すんじゃないろうが。公有財産の売却じゃろうがな。この間の6丁目と同じじゃがな。勝手にぼんぼんぼんぼんしてから。やり方がおかしいんじゃないか。ちいたあ先言わにやおえんのじゃねえかと思うんじゃ。それが1点。

それから、やってくれようのけちをつけるわけじゃねんじゃけど、地球史研究所オープニング・フェスタのときに物すごい向こう説明して記念講演のとき友實市長を褒められよつた、ようやってくれた。その友實市長が来てなかった。そりゃあよそであったから来てなかった。じゃけど、自分は大事業を率先してやろうかというてやったのに来てねえ、副市長が来とつたからええというわけじゃねえ。逆で副市長が後寄つて交代してほしかったというのを僕が言いたかった。こりゃ市長の公務のこっちゃからどうこう言うあれもねえんじゃないけど、そう思うて。いうのが、あそこであんだけ市長を持ち上げてくれたから、僕は今あえて思うた。下山さん、そんな感じじゃったな、今言うのは。金谷議長は議会としてびちつとええ挨拶していただけた。感心してこりゃさすがにええなと思うたんじゃけど、こういうときに来てなかったら地元の関係者は少ねえかもしれんけど、やりようの人がどれだけ力を入れとつたかというのがわかりにきん。市長が来とつたら力入れてくれとるとこれから前向きになるというの、市長来てなかったいうて朝のとき、市長は午後から行つたらしいというてきのう聞いたら午後から行かれたというけど、それで結構かもしれんけど、ただ言いたかったのは地元の人に言うたら市長来てなかったなという話から朝なつたんで、そういうことかなるんじゃないかええかなと1点思いました。

それで、ここのことについて僕は個人的なお話ししょうたんですけど、恐竜のレプリカじゃとかなんとかあつたりしたんじゃないけど、置いとつたんじゃないけど、市長こういうことこそ専決でやってもらわな。こういうところへ1,000万円でもええ、2,000万円でもかけてもつと直しちゃるとか、体育館の中へ簡単な1億円、2億円のもんはおえん、1,000万円か500万円、恐竜の剥製の標本をほんまもんじゃのうて古い簡単なレプリカをつくるとか、上から見たらこういう地

層はこうなる鳥瞰図をつくるとか、そういうことを1,000万円とか2,000万円かかるからということで専決せんで。何でもかんでも専決というのは納得できんと思う。こういうことを今そう思うた。そのことをするかしないかというのを、これから考えていくかいかないかというのを教えてください。

それから、山陽団地等の活性化対策事業について。先ほど申しましたが、前田部長のほうからこういう専決があるとか、こういうことというて連絡があった、はいそうですか言うて聞いておって、その14日の日に金谷議長とも下山さんともお話を、早う行っと思って話しさせていただきょうたんですけど、専決というのは議会を開くいとまがないというて、議会を開くいとまはいつでもあるじゃねえか。和気町やこ急遽でも臨時議会しょうる、美咲でも、美作でも、うちだけじゃねえか、せんのは。どうしてもやらにゃおえん、議会が初めて解散なって新しい議員が決まったときにやったぐれえのもんじゃねえか。開くいとまあるんじゃねえか、自由に。こういうことをこれが単純な、というのはどうしてこういうことを専決するかというのを教えていただきてえ。そういう中で、山陽団地の中でやることは決して悪いとは言ようらん。じゃけえ、交通対策は議長さんとも、議長話ししましたな。下山さんも、交通対策というのは山陽団地だけじゃねえんじゃ、赤磐市全体の問題なんじゃ。共産党の福木議員が時々言ようる、交通課つくりましょうということも絶えず言うてきた。下山さんの意見は1人専従を置けというて、いろいろな考え方はある。じゃけど、交通課つくれとか専従を置けというのものもあるんじゃけどいろいろなこと、一遍全体の赤磐市の調査をしてみりゃええんじゃねえんか。調査をしてみてその中でどういうことが吉井地域には必要とか、赤坂地域や山陽地域には必要、特に山陽団地にはこういうことが必要じゃということは無償化とかやってみりゃええんじゃねえん。それで、人から聞いた話によりゃ、いろいろ聞いた話というのは、山陽団地活性化対策推進協議会の中の委員の委員会を出て、自動運転化がええんじゃいうてやりゃええんじゃねえかと言うて、はいやりましょう言うたんで、そしたら前の副知事の名前は省略しますが、副知事は反対じゃて。僕も反対。これが事業が反対でもやり方が反対、システムが。この協議会を出た活性化対策協議会出たことをそれをよう考えて今度は反映するかせにゃおえんのじゃ。委員会出たやったらそれがすぐ即専決じゃとか、そんなばかな話は議会軽視も甚だしいわ。だから、怒って、金谷議長何しようったんならというて、議会開けるいとまがあるんじゃねえんかというて、議長は開けるというて、議長、市長相談やってもらいてえということをやんじゃ。市長もやりとうて市長に出たんじゃから、議長もやりとうて議長出たんじゃろ。相談してもらわにゃおえんのじゃ。簡単にぼんぼんぼんぼん変わるといふ話にはならんで。僕は納得いかんというのがこういうことが納得いかん、やることはええかもしれん。それで、宇野バスのこともいろいろ話ができんかもしれんけど、そういうこともよう考えてもっとびちっとやってもらわんなら、これさっきからずっと言ようるが、執行部わしらのやるこっちゃからほっとけというのは大変不謹慎な、甚だしい。

それから、次の結婚支援です。これについては聞いてなかったという、遠藤課長が言うてくれたからこういうことの会するのはメンバーが悪いとかそういう意味で言うたんじゃねえ、人選が悪い言うたんじゃねえんよ。僕の言いたかったのは、こういうことを2月に言うたいいうて、2月のことやこもう忘れとる、2月は選挙で忙しいときだったから、そりゃ勝手な話かもしれん。そういなことは2月に言うとするたら大口議員、永徳議員はどうなるんな。それからまたまた言うたらここおる下山さんも総務委員なられとるけど、下山さん前は厚生委員じゃった、どうなるんなら。前、本会議でやったと言うけど新しゅうなった人はわからんじゃねえか。じゃから不親切な言よん。これが続いてずっと来とんじゃったら別に余りこっちが勉強不足じゃったなで終わるんじゃと思うたん。課長が断り言うてしたんでえんじゃけど、やってもらいてえというのはそういう意味のことを言いたかったんで、違ふとりや言うてよ、市長答えてもらふ、違ふたら言うてください。

それから、ふれあいサイクリング大会のこれ出たりカップリングも出とんじゃけど、こりゃカップリングのことこれだけ後から総合的に教えてもらいてえのは、11月5日のは一緒に柵原になつとんじゃけど、赤坂、和気、美咲町ということかな。その確認だけ1点してから。これ人数があるんかな。いっぱいなりよんかな。それもわかったら教えてほしいん。

それからもう1点、こりゃ後からみんなほかの、学力の学習状況調査やこ、僕わからんの評価やこうが。もうちょいわかるように、僕がわからんのにあとの者はみんな大抵わかつとるまあ、大体、失礼な言い方やけど。

○委員（下山哲司君） 委員長、永徳さん、この前この件やこ聞きよた。

○委員長（北川勝義君） 後で言うんじゃ。総合的に言よんじゃけ黙ってえてくれ、あんたも、腹が立つとんじゃけ。これもわかるように説明しやすいように、いつも同じような書類じゃが。こんな書類じゃったら要らんのじゃ、いつももらよんじゃから。これ説明ようしてください。

それから最後、下山さんちょっと黙ってえてよ、今、消防の言ようる話で消防が秋季火災予防運動行事じゃとかいろいろなこと出された、ふれあい消防フェス、同じ日にやるのは悪い言ようるけえ時間的に違ふからえんかもしれん、構わん。きょうのこと、先ほど議長さん、市長さん来てくださったんじゃ。我々の案内じゃねえじゃねえか。どういことな。案内があつたか。前回でも言うてくれた、案内なしで議長さん、議長や市長には来てくれというて案内したんじゃろうがな。案内しとるから来とんじゃろうがな。議長が探して行ったんか。我々もあつたら行くかもしれんし、案内がなかったら行けりゃあへんじゃねえか。葬式じゃねんで、おめえ。案内がなかったら行けれんが、わからん、広報もなかったら。そういうことをきょうはいかにも議長さん市長さん来てくださった、来とるけええと、ふざけたこと言うな、おめえ。

それから、7月の松田さんにも一遍言うたと思うんじゃけど、9月3日にクリーンキャンペーンがあつた日か、岡山県総合防災訓練西大寺緑化公園で9時から13時まで議運でもずっと言

うて本来じゃったらこれに行こうというて前のときには松田議員と僕と、松田さん行ったわな、佐々木議員、治徳さんやこ皆5人ほど行ったん。今回こういうなときにや議運に上げとって、日程に上げとって行けも何も言わんし、僕は行かにおえんけん、通知が来るんじゃろうなと思うて、何にも言うてこんから欠席で1人でどこへ行きやあいうのあったから、こねえなときにやどういうことをしょんなら、あんたらのやり方、消防本部にしても。ええときだけやりよんか、来てくれと言うてから。今執行部言ようること、僕の言ようことわからなんだら大分ぬるうなとらあ。当たり前の話じゃ、これもう。今下山さん言うたんであと全部聞くけど、僕は別にしょっぱなに聞いたかったことじゃねえ。聞くのがねえから僕が聞いてあげよう、考えて聞いてくれりゃあええのに、それだけのことを教えてください。

以上です。

関連したんがあったら委員さんで関連のことは聞いてください。お願いします。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 直原部長。

○財務部長（直原 平君） 1番にお聞きの熊山工業団地内における公有財産の売却についてということでございまして、こういう大きい土地の売却、それから貸し付け、そういったものにつきましてはこの委員会へ上げさせていただくようにしております。前回6丁目の件もあったわけですけれども、あの件につきましては非常に報告が遅くなったということもございまして、今回熊山工業団地内における……。

○委員長（北川勝義君） 決定したんか、報告言うたん。

○財務部長（直原 平君） え。

○委員長（北川勝義君） 決定したんか。

○財務部長（直原 平君） 何がですか。

○委員長（北川勝義君） 決定しとんか。

○財務部長（直原 平君） これですか。

○委員長（北川勝義君） はい。

○財務部長（直原 平君） いや、全然これからの話でございまして、赤磐市のこういった公有財産につきましては、管理委員会のほうに諮るその前にこの委員会に出させていただいた次第でございまして。今後の予定といたしましては、2ページにあります……。

○委員長（北川勝義君） いや、そんなこと聞きようらん。この説明を……。

○財務部長（直原 平君） はい。

○委員長（北川勝義君） 前言うたが、6丁目の貸し付けのときには。

○財務部長（直原 平君） はい。

○委員長（北川勝義君） 立て板に水みてえに直原君らが言ようたがな。

○財務部長（直原 平君） はい。

○委員長（北川勝義君） 今度は熊山じゃというてあるけえ山陽じゃけん、これ山陽じゃけえうちがやるんじゃ言うんか。僕の言いてえのは、支所でやっとなのが支所で、これ財務部が説明しようたらそうかというてなるけど、支所が説明したりしようるからそこを話をそれを聞きようんじゃがな。何聞きよんかわからんのか。

○財務部長（直原 平君） 公有財産の管理委員会のときに各支所、それから担当の赤坂、熊山、吉井につきましては支所から持ってきていただきまして説明をしていただくということで内容的にも支所が一番よく御存じだということでございまして、今回も……。

○委員長（北川勝義君） そりゃ違う、やり方が。

○財務部長（直原 平君） 今回も説明につきましては支所長のほうにお願いをしたという経緯でございます。

○委員長（北川勝義君） 市長、これが市長がええと思うてやられとん、そりゃ岡山方式かどこの方式か知らん。僕は今まで行政も27年間行ってきて、僕らがしょうるときはそうじゃのうて、支所から上がろうとどっから上がろうと上げる説明会、財産の検討委員会やこは支所から支所長が一番わかる現場で上げて支所とか担当課長上げりゃあええ。そん中で委員会したら委員会であんなことになって、ここで説明するときには僕は統一で財務部が説明すべきじゃ。それで、関係があつて調べにやおえんことは。そうせなんだらおめえ要りゃあへんがな、あんなら、中おるのは。統一見解を持つとかにやおえるもんか、おめえ。この間も山陽でこうしましたんじゃというたら、山陽支所でやれ、山陽支所どうすんな。山陽支所あるんか。今言よんのはな、そういうこと大きいじゃ細えじゃと言うて、一つのことの僕は考え方のこういくんですよというたら、例えば指名委員会の指名委員長いうのは誰なあ。副市長じゃろうがな。あんなじゃなかるうがな。この間まで職務代理者か何かおらなんだけん、じゃけえ市長が言うたけえそんたくじゃ、おえんのんじゃ、市長が口出さんようになってあるわけじゃ。指名委員長というのがあるわけじゃ。指名委員長、市長に市長どうのこの指名入れえ、市長は悪いぞとかというて市長に言わんのじゃ。指名委員長に言わにやおえんわけじゃ、これ権限が違うんじゃけえ。それと同じように今やりよんのが、内部のことはええ、市長が一番よう知ってるから言うのはええんじゃけど、そこあんなのところが判断してやらにやおえん説明やこじゃねえんかというのを言いたかった。ほんなら、今度は本会議で市長は支所長に説明させりゃええがな。こうじゃああじゃというて。報告事項のことまで逆らよんじゃねんよ。そこらがな、市長、根本的な流れがというのを僕は聞いたかったわけ。別にええんじゃ、支所がやっても。これから全部支所でやりますよ。支所長というたらそねえな暇なんか。支所長というのは支所全部の統括じゃが。おめえら軽う考えとんじゃねんか。部長と支所長は対等じゃ言うけど、わしや本庁の部長じゃけ偉えんじゃと。支所は支所長じゃけん目じゃねえわというて、そう思よんか。そんなことはねえぞ、おめえ。

○委員（下山哲司君） 話がそれようるで。

○委員長（北川勝義君） それようりゃへんし。確認とってみい、それ違うたら。どねんなことなとんなら。そういうこれからやり方やっていくんか。今言うたように。教えてほしい。何でもええような発言の不注意があつてから、ぼれえけえ建てかえるんじやとか、おめえ、せえで何しいおめえそねえなことまかり通ろうでえ。そねえなんもう竣工しとつてから。ここへ来て先言うて、前回のようないことがありました、大変御迷惑おかけしましたと、今回こうでうちがやらにゃ支所単位じや、今の説明して支所長がやってくれるんじやつたらわかる。全然違おうがな、やり方が。市長どう思われらあ。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） まことに相済みません。お配りしてる資料にも管財課というところで熊山工業団地の土地売却というふうになっております。本来なら財務部のほうで説明するべきと考えます。今後このようなことのないよう気をつけてまいりますので、どうぞよろしく願ひいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） そう言えや、おめえも。

○財務部長（直原 平君） はい。

○委員長（北川勝義君） 次言うてくださいよ、次から、次。

結婚支援でもええし、言うてくれえよ、地球史研究所は市長じゃけええんじやけど。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 結婚支援について御質問いただきました。

重ねてこれまでの御説明不足についておわびを申し上げます。

11月5日に予定しておりますカップリングパーティーにつきましては、先ほど申し上げましたように、備前市、和気町、美咲町と赤磐市の2市2町で共催して取り組むものでございます。今予約の状況は直近でほぼいっぱいということで聞いております。それで、実は昨年度からこの取り組みを始めましたが、昨年度はサイクリングとそれからウォーキングという試みをイベントとしてやってみました。しましたところ、反省事項といたしまして警察のほうからサイクリングとウォーキングを同時には開催しないほしいという御指導をいただきましたので、今回柵原鉦山公園と鉦山の見学というイベントにさせていただき、次年度以降、ぜひこの2市2町のところでどこかでやりましょうということを事務局で今話し合っておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 課長な、そりゃええんじやけど、満杯なるんならなるんでええんじやけど、僕は何が言いたかった、成立してくるのなかなか成立しようらんので、関心事もせ

っかく、さっき委員さんが悪い言うたんじゃねえんよ。どうやって決めたんも僕が言よんのは全員が同じように議会続いとってやりよったら僕は言うんじゃねえ。新しゅうなった議員さんもおって、知らん人もおられようということがあったから前提で言よるわけじゃ。いやそれは違うんじゃったら違う言うて、それは断りしたからええんじゃけど、その今言よん、そういうときに、今何が言いたかったか、新しい委員さんが決まりゃあ今度新しい委員さんによ練ってもらって、こんなのはマンネリのちょっと広げたけど和気町とする、マンネリのことばあ和気町入ってねえんじゃな。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 入ってます。

○委員長（北川勝義君） 和気、備前、備前入ってねえか。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 備前、和気、美咲。

○委員長（北川勝義君） そういうこたあ4つじゃがな。

○委員（下山哲司君） 2市2町じゃ。

○委員長（北川勝義君） 4つじゃ。せえで、やられるんじゃったらええんじゃけど、そりゃ一つの方法論なんじゃけど、僕が言よんのは、このぴちっと委員会に出して委員をつくったんじゃから、人がええとか悪いとかじゃねえ、やっていくんじゃったら今度は考えてほしいんじゃ。おめえ何を考えよんならというたら、こういうことへ専決使うたりお金かけたり、例えば言うたら、いろいろカップリングパーティーやこテレビでやったりしょうんがあらう。田舎に嫁に来てください、1泊2日でもやりようとかという。やっぱりあのけえぐれえやるんじゃったら、ぴちっとしてどっとやることを、せえから言うたら両備じゃ下電じゃも巻き込んで頼む、交通公社とか巻き込んで頼んですることをせにゃいけんのんじゃねえかと思うん。何にもねえ、ただ会ってみてちょちょっと話をしてみ、今こけえ僕が知った子は前々回ぐれえが一番人気じゃって、行かんのんか言うたら行かんというて言うた。年の行ったんばあ出てきておばさん、おばさん言うたら年の行った似たようなん来て、やっぱり行かんという話になってから、同じことの繰り返しじゃから行ってちょっと話してもおもしろうねえということになるわけじゃ。行かれえと言うたんじゃけどな、この間も。ちょうど10月の秋祭りで行きゃあええがなと言うたら行かんと言うて。同じことなん。それよりはもっと幅広うするじゃの、前昔とんねるずがしょうったカップリングのあれじゃとかそういうんじゃねえんじゃけど、ふれあい公園でもええ、どこでもええ、してから大きゅうしていきいき交流センターでもええが、あそこ中心として焼き肉しても何でもええ、何か大きゅうせなんだら魅力がなかったら嫁に来るんかもらいてえ、結婚してえんも両方じゃけど、募集するのに、よそから女の人でも東京とか例えば大阪とか岡山市内とかこっち来てくれるのなかなか少ねえと思うんよ、ここへ来て魅力があるから、ちょうど言い方悪いけど、ワインまつりのときにするとか、一緒に今やり方できんか何か。大きゅうしてもらいてえなという気持ち、そりゃそねえなんに予算かけるのは僕は悪いとは言よんじゃねえんじゃ、そういうことをしてもらいてえということ言いたかった

ん。そりゃ意見ですから。市長、今後考えてください。

次言うてえ。

山陽団地言うてくれえ。

説明してくれえ。

○総合政策部長（作間正浩君） はい。

○委員長（北川勝義君） 部長。

○総合政策部長（作間正浩君） 山陽団地に関する御説明ですが、交通の関係をおっしゃられたんですが、交通の関係はこの前お話ししたようにアンケート調査を現在させていただいております。抽出で悉皆調査ではないんですけども、ある程度の線は出てくるのかなと考えております。それにつきましては、調査中ということで交通会議のほうで編集をさせていただきようります。

○委員長（北川勝義君） じゃから、僕はまだ調査アンケートして足のことするというてやりようるときに、はや専決するというのはおかしかろうがなという話をしょうるわけじゃがな。調査が、赤磐市全体でやるようなことで金をかけるとか全体調査するとか大歓迎なんじゃ。せえで一番は優先順位は山陽団地をやらにゃおえんと、ネオポリスの一部分をやらにゃおえんと、吉井の一部をやらにゃおえんとか、順番はそりゃ山陽団地が一番ですよ、次はネオポリス、赤坂ですよ。これでええんじゃ、順番決めてもらやあ。順番とかと言うたらおかしいけど、同時にやっても。そういうな全体がなかったらおえん、思いつきでほん言うて、それまで市長はずっと考えとったんじゃ練って練って作間部長と考えとったんじゃと2人が言うんじゃったらええけど、山陽団地のこの協議会出てからバスをしてくれと言うたらやりましよう、それをほんならへえすぐやりましよう、そりゃ通るまあ、おめえ議会前にそんな話でおめえ専決されたらたまったもんじゃねえ。そういうことは議長のほうも納得いかんということと言う、じゃからいつでも議会開けるよというて言う話じゃ、開いてやってもらやあええ、お互いにやるということが悪い言よんじゃねえんじゃ、やり方じゃあという話を、前回の副市長と同じじゃ、わしゃそう思うんじゃ。納得いきょうらんのじゃ。みんなが納得というんもそんな別に反対するとかそういう話はねえんじゃ。もうちょいやり方が違うんじゃねえかと思うて、そこを聞いたかったんじゃ。じゃけえまだアンケートも、この間アンケートする言うたが。アンケートも出てねえのに、はやもう次をするというて、ありきじゃがな、そなん、おめえ、そりゃあ、いけんがな。アンケートが一応終わって決まってこうなったけんこういう要望があつてこうしたんじゃ、会議も出してこうなつてこうじゃ言わにゃ、アンケートしたから、ほんなら偉え人が言うたらすぐ通るんというてぼんぼんぼんぼん、昔は言よつた、下山さんが北川が言うたらすぐ通るんじゃ言うてこういうて下山さんが。せえこそ北川が言やあそのまますぐ通るんか、おめえ、おかしんじゃねんか、おめえ。わしゃ納得いかんというのを言いたかったんよ。こんなこっちゃつたらやり方が間違うとんじゃねえかというの別に1人でどうこう言う

んじゃねえ、そりゃやってみりゃええ。これからは専決、そりゃ市長専決せずに議長も定例4回だけしたら議会開かにかええ、そりゃせにやせんでええ、そりゃ、そうやってもらやあ結構なんじゃ。

○総合政策部長（作間正浩君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、部長。

○総合政策部長（作間正浩君） 臨時議会とか専決の件につきましては、お気持ちはよくわかりします。それにつきましては、後ほどその他のところで説明を一緒にさせていただこうと思っております。今回交通会議にかけた件とは別に自動運転のことをおっしゃられてると思うんですが、それにつきましては春にいろいろ御提言いただいてからこちらのほうでもEVという電気自動車、小型の今セブーンイレブンのほうに置いてあるようなコンピューターの1人乗りのちっちゃい電気自動車、これの導入とか、それから自動運転としてもゴルフカートのような形式のもの、それから本当の自動車の形での自動運転のもの、それからバス形式の自動運転のもの、いろんな種類がございます。こういったものが、今宇野バスさんとかが幹線道路走られてますので、交通計画としましてはそれにつなぐ手段が必要だ、バス停まで出るのにどうしても困るとそんな話もございまして、こういったものが使えないかなというような検討は確かに前からしておりまして、それにつきましていろいろ相談して実現可能性なんかもどんなのかなということで相談してたときにお話があったということで、後ほども説明させていただきますけど、どの形式が一番いいのでしょうかということの御相談をしたところ、たまたまその機会を得たということでございますので、思いつきでぼんとここでやったらどうか、それから田舎ではしないのかとかいろいろお話あると思うんですけども、国土交通省のほうでは今道の駅を利用して中山間地域での実験ということを計画されております。これ全国20カ所ぐらいで……。

○委員長（北川勝義君） 道の駅がねえといけんが。

○総合政策部長（作間正浩君） はい。新見のほうで今予定されとるとというのが山陽新聞のほうにも出ておりましたけれども、それをやっとならるのを並行してこちらでやってくれという話じゃなくて、うちはまちづくりの一つの足がかりとしてこういった方法が取り入れられるんじゃないかということで同じところするんじゃないかと、山陽団地のような丘陵地にある坂があるような住宅団地においてその実験をする。そして、警察のほうといろいろ調整をしなきゃいけなかったんですけども、その警察のほうもいろんなガイドラインとかも設けられておましてそれに合致するかどうかという判断をしてもらうのに……。

○委員長（北川勝義君） そんなこと、議会の話しょんじゃ。

○総合政策部長（作間正浩君） いろいろありまして、そういったことも検討いたしましてしておりますのでなかなか思いつきでぼんとやったというんじゃないかと機会を得たというふうに考えております。

それから、その最新技術につきましては、議員の皆様方にも参加いただきましていろいろ体験していただいて意見いただけたらと思っております。

○委員長（北川勝義君） 僕はそりやおえんとか言よんじゃねえ、前からあったけんやりょうて、その後そんなこと僕たちにや、やっていたきやええんじゃけど、僕の言よんのは山陽団地だけが急勾配で悪いところか是里はどうなん、店の一軒もねえ、何もねえとけえどうすんなら。じゃから、黙ってえてくれよ。

○委員（下山哲司君） 委員長1人でしょんじゃねんど。

○委員長（北川勝義君） 1人でしょんじゃねえというて言やあええじゃねえか。質問しようるときよう言わなんだがな、よう言わんで人が言うたときに追加して言ようだけじゃねえか。最後の……。

○委員（下山哲司君） 自分が先言うたんじゃ、みんな言いてえわや。

○委員長（北川勝義君） 違うが、手を挙げなんだがな。挙げりやええがな、関連があつたら言うてくれえというてよう言うてねえじゃねえか。今言よんのは僕が言うた答えをもろうてねえから言よんじゃ、言いたかったら言いんせえ。いつものこっちゃねえか。作間さんな、市長の言ようるそういうなんがあつても、僕が言うたのはよそのところはどするんなあ全体はというて言よんじゃがな。調査するとかそねえなことは予算せんで、アンケートがまとまらん間にやる。そりややりたけりややりやあええ、あんたら。せえで今度はやりようることはよそはせんのか言よんじゃ、よその調査もせにやおえんのじゃ、調査もするんですよとか、今後考えていくんですというけど、そねえなこと、山陽団地……。

○委員（松田 勲君） よそはアンケートとるんでしょ。

○委員長（北川勝義君） よそも皆じゃがな、松田さん言いたかったら言うてくれ、わしが終わったら言うてくれりやあええから。よそが通つたらそのとおりにすぐやってくれるんじゃな、アンケートとつたら。そんなもんじゃねえかろう、やり方が。あんたら山陽団地だけでええから山陽団地でやられえ、これから。それが答えじゃつたらそれが答えでええ、僕はそう出すから、ほんなら皆。

○総合政策部長（作間正浩君） 委員長、済みません。言葉が足らんかったかもしれませんけど……。

○委員長（北川勝義君） いや、足らんでもええ、もうええ、よろしい、次やってくれ。

○総合政策部長（作間正浩君） 全市でやるということになりますんで、ここだけでやるっていう……。

○委員（松田 勲君） 山陽団地でまずやる。

○総合政策部長（作間正浩君） まずやって、はい。

○委員（松田 勲君） それをもとに。

○委員長（北川勝義君） 違うがな、是里の急勾配でできるわけねえがな。道の駅が、町の駅

がどこへあるんなら。赤磐市どこもありゃへんじゃねえか。

○委員（松田 勲君） 是里にこだわらず。

○委員長（北川勝義君） 是里にこだわらん。赤坂でも同じじゃ。熊山でも同じ、石蓮寺でも同じじゃ。何を言よんなら。

○委員（松田 勲君） それはこれからでしょ。

○委員長（北川勝義君） これからじゃねえ、石蓮寺やこできるわけねかろうがな。これは都市の団地の山陽団地の再構築の話でやりよんじゃから。それとは違うがな、全然。

○委員（松田 勲君） アンケートはアンケートでまた別にとるんじゃろ。

○委員長（北川勝義君） ええからそれやってくだせえ。僕は納得せんから。

○総合政策部長（作間正浩君） 国土交通省でやられとんのは中山間地の道の駅を中心としたところでやとられます。例えば吉井町であれば吉井の支所を中心としてあそこへ自動運転の車が集まるようなことも……。

○委員長（北川勝義君） 自動運転の車が集まるて行きゃあへんて、そんなことはええって、そんなことはもう、あんたら思うたようにやられえ。あんたらの思うた……。

○総合政策部長（作間正浩君） そういう可能性もありますんで、勝手にやりようということではなくて検討をさせていただきようということなんで……。

○委員長（北川勝義君） 検討じゃねえ、専決しとるということは検討じゃねえがな。専決でやるんじゃろうがな。

○総合政策部長（作間正浩君） 専決でやる内容が実証実験という検討なんです。

○委員長（北川勝義君） 検討じゃねえで。

○総合政策部長（作間正浩君） いや、入れますっていう話じゃないんです。検討なんです。

○委員長（北川勝義君） 違うがな、入れてやるんじゃがな、そねえなこと聞いてねえがな。

○委員（松田 勲君） 実証実験。

○総合政策部長（作間正浩君） ですので、ここだけでやるとかという話じゃなくて……。

○委員長（北川勝義君） 何で松田君だけがよう知とんじゃ。松田君らだけ話しょんか、公明党と。

○委員（松田 勲君） 今話しようったら……。

○委員長（北川勝義君） それだけで簡単にわかるわけねえが、そんな理解してねえ。

○委員（下山哲司君） その話ついでに聞きたい。

○委員長（北川勝義君） もうよろしい。もうわしゃ言わんから、大儀なけえ、今度あんたらが全部せられえよ。ええ格好言うたんじゃ。わかったようなこと。

○委員（下山哲司君） 美作市の上山で東大と岡大とトヨタがやりようの知とられる。内容的に。

○総合政策部長（作間正浩君） はい。知っております。

- 委員（下山哲司君） どういうふうに理解しとんか教えて。
- 総合政策部長（作間正浩君） あれは上山地区の一部のトヨタに今通じた方がトヨタの財団がありましてそこに依頼いたしまして、あの地区はいわゆる棚田地区でございます。
- 委員長（北川勝義君） 結果がわかっただけでよ、結果を。
- 総合政策部長（作間正浩君） はい。それで、そこへ導入して実験的に、狭い道ですのであつた乗り物がいいんじゃないかということで検討されとるという話は聞いております。
- 委員長（北川勝義君） 結果どんななら。
- 総合政策部長（作間正浩君） 結果については、まだ、ただ大金かけられてやられとるといふ話は聞いております。
- 委員（下山哲司君） 委員長、ありやあな、そういうものじゃないんじゃないけど、大学の研究と現場のあれをマッチしてそれでトヨタが銭を出して研究をしてもらようということなんよ。じゃから実際的には自動運転はまだ法律ができて自動運転やこできるよになつたらん、日本の道は。じゃからそういうことがいつ法律ができるんじゃないとかそういうもんも言わなんだら今そしたらやれそれという話にゃならんので、そういうきちとした説明をしてもらわにゃ、僕もあつこかかわつとるから内容は知つとんじゃけど。
- 委員長（北川勝義君） かかわつとんかかかわつてねんか知らん。何にかかわつとんなら、言うてみい。
- 委員（下山哲司君） 話しに行きよう。それはええんじゃないけど、そういうことは。内容的にはどういふことやりよんか聞き行つとるからわかるんじゃないけど、そういうのはそこだけの研究なんで、まだ日本の公道でほんならそれができる法律が自動運転の法律ができる、法律ができてないじゃから、じゃからそういうことをきちつと説明しながらこういうことをやりたいたいというんならええけど、説明不足じゃと思うん。じゃからその辺を第三者が聞いてわかるよな説明をしてから物事を歩み出さんと。
- 委員長（北川勝義君） 専決じゃがな。
- 委員（下山哲司君） おかしな方向へ行ってしまうんじゃねえかなというふうに今の説明聞きようたら思うんで、もう少し慎重に、やるな言うんじゃなしに慎重にやって扱ってほしいというふうに思いますので、そういうふうな説明をきちつとしてください。
- 総合政策部長（作間正浩君） 下山さんの今のお話なんですけれども、これからその内容についてはその他のところで説明させていただこうと思うんですが、先に話が出たのでそれだけ簡単に言い過ぎたと思います。
- 委員（下山哲司君） ほんなら、その他でやらしてもらおう言やあいい。
- 総合政策部長（作間正浩君） はい、済みません、そういうことでございます。
- 委員長（北川勝義君） 早う答えてくれよ、次々。
- 学校教育課長（松井啓子君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（松井啓子君） 済みません、資料のほうが十分にわかりづらいものになっておりまして申しわけありませんでした。

もう一度教育委員会の資料のほうごらんください。もう少し丁寧に説明をさせていただこうと思います。

全国学力・学習状況調査の結果の1番の(1)小学校6年生の調査の結果でございますが、それぞれ国語A、B、算数A、BということでAのほうが基礎の問題、Bのほうが活用の問題ということでこれまでも御説明をしております。赤磐市それから岡山県の結果について上段から中段に示しており、全国の平均正答率が一番下段に示されております。その比較でお話をさせていただきました。今年度から岡山県においては整数値で表現をしているということで具体的に小数点以下のところがわかりづらくはなっておりますが、それで比較をさせていただいております。その中で、A問題、基礎基本の問題については全国平均には及んでいないもののかなり近づいてきているということでございます。また、中学校3年生でも同じようにして表を見ていただけたらと思っておりますが、こちらもA問題については全国平均を同じか超えている状況でございます。そのような形で見ていただけたらありがたいと思います。

また、施策の成果ということでは、同一学年の変化を見ていくしかないということで下のグラフのほうで報告をさせていただいたところです。小学校6年生については前年度それから前々年度に行ったたしかめテストというのがありますので、それとの比較で全国平均と比べてどのぐらい伸びがあるかということでその差を見ているところです。例えば、三角のところ小学校4年生であれば算数のAは平均正答率が10ポイント以上開いておったものが小学校5年生では5ポイント未満になり、さらに今年度についてはかなりそのポイント数、1ポイント程度におさまっているというような形で確実にこの学年の児童については伸びが見られているということでございます。同じように、中学校3年生では平成26年度の小学校6年生に受けたときのもの、それから昨年度、それから今年度という形で比較をさせていただいており、これは伸びについては非常に少ないんですけども確実に伸びてはきているというような結果が見とれるということでございます。

済みません、報告のほう丁寧でなくて申しわけありませんでした。

以上です。

○秘書企画課長（小引千賀君） 秘書企画課、小引です。

先ほど地球史研究所の恐竜のレプリカについて御意見をいただいたかと思っております。ありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） 意見じゃけえって。そんなこたあ意見じゃけえ。意見じゃからよろしい言よんじゃ。

○秘書企画課長（小引千賀君） よろしいですか、ありがとうございました。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） 先ほど第28回の赤磐市消火技術訓練大会のところで議長と市長の御参加の挨拶をさせていただいてますけれども、本大会の顧問として議長と市長のほうには御参加をいただいたものでございます。どうぞ御理解のほうをよろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） じゃったらそこで言うこたあねえが顧問でやっとなのに、おめえ。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） はい、大変……。

○委員長（北川勝義君） 顧問で言やあええじゃねえか、おめえ。ほかの議員には来てねえのに、これからワインまつりもほな議長と市長だけで行かんど。議員は。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） はい、大変申しわけございませんでした。

○委員長（北川勝義君） ほかのも行かなんだら今度は次のとき言えよ、12月議会のときにや、行きやあへんど。そねえ勝手なことできまあがな、おめえ。顧問なつとるじゃ、ほな顧問でしてもらやあええじゃねえか。別に議長が行ったからって何にも怒りょうりやへん。議長が行ってええ挨拶くれてええと思うとる。議長行って議長一人、私一人行ったんじゃほかの議員が来とりやせんやこ言わん。議員を代表して来ましたというて議長ぴちつと言うてくださるけええんじゃ、そりや。ほかの者は聞かなんだからという話をしょんじゃがな、そういうことを言うたらいけんというて、この委員会で。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） はい、大変申しわけございませんでした。今後気をつけます。

○委員長（北川勝義君） それじゃねえ、それからあれ教えてくれえ。9月の。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 9月3日の総合防災訓練につきましては、くらし安全課のほうが所管課になっておりますので、説明をさせていただきます。

7月委員会でくらし安全課から開催についての説明を他の行事と一緒に表にまとめて行いましたが、詳しい説明についてはそのときにいたしませんでした。今後参加をお願いするようなものにつきましては特に説明のほうさせていただきたいと思っております。申しわけございませんでした。

○委員長（北川勝義君） 違うんじゃ、そんな話をしょんじゃねんじゃ。何を聞きよんな、皆わかったようなわからんような顔してから。わしがむちゃばあ言ようるいうて、自分ら正しいこと。自分らが正しかったら正しいこと先言え、言う前に。こういうときに会議で委員会でこういう訓練をすんじゃと、9時から13時まですんじゃというたら、今まで中四国やったときも行きようる。松田君行った言うたら。行きようるときにやるんじゃったらこのときに行かん

もええ、関係ねえんじやったら言うなあ、おめえ、そねえなことを。関係あるから言よんじやろうがな。赤磐市の議員に総務文教委員会に関係ねえこと一々報告せんでもええじゃねえか。こりゃ僕はそのうち行ってくれえと言うてくるんじゃねえかと思ようったけど松田君に言うたな、その話は。来ん。そりゃ今回稲刈りがあるけん稲刈りがあつたりしょうるけえ欠けとるけど、それ以外はわしや全部出よんじや、どんなんでも、行きとうのうても。一言も物を言わせてくれんというのわかつってその他一人でもついて行って我慢しておるんじや。これでも行って言わにゃ参加せにゃおえんから赤磐市は一人も来なんだとかというて例えば割り当てがあつておえんから行かにゃおえんと思うてしよんじや、何にもねえ、そりゃあつたんです。ねえんじやったら上げるな、行かんでもええんじやったら。おめえ東京で何かがあるからというて、衆議院の何とか参議院何とかというてそれ書かんでもええがな。東京であることは。行かんでもええことを書いとつたら行かにゃおえんのんかと思うじゃねえか。わからんか、中川課長、言ようること。行かんでもええこと書かんでもええじゃねえかということと言よんじや。行かにゃあおえんこっちゃつたら言うてくれりゃあええ。

○委員（松田 勲君） 前は要請があつた。

○委員長（北川勝義君） いや今回はねえとかじゃけど、それは松田さんが言ようるから松田さんの話で松田さんこれからおめえ向こうへ座れえ、ほんなら。ふざけるんじゃねえわ、おめえ。

○委員（下山哲司君） もうええがな、そんくれえで。

○委員長（北川勝義君） ようねえわ、おめえ。あんたその前行く言うて来なんだが、ずっと待ちようたけど。連絡してから。じゃから、僕が言いてえのは、市長、用事のねえのは書く必要ねえんじや、お知らせでこういうのがありますよ、行きてえ人は行ってくれえというんじやつたらええけど、何にもねえのにそりゃおかしかろうという話をしょうるわけじゃ。そのくれえでええがなというて、ようねえわや、そのくれえ。自分は前のとき来るというてずっと自分を待ちようたがな。来なんだが、連絡ものうて。何を言よんなら。僕ら来れんときは来れん言よんじや。その辺のことは、これからはどうするん、ねえのもこれから全部出すんかな。関係ある、行かにゃおえんとか関係あるのは出しゃええけど、関係のねえことはお知らせこういうこともありますんじやて、この間のときには行かにゃおえんような感じでこういう通知が来るような感じ受けとるからな。それを何にもねえようなこと手帳へも書かんで、来にゃおえん言うたからほな行かにゃおえんのじゃな、あけとく。今言うた、クリーンキャンペーンがあるんじやけん早う帰るんじや、時間はええんじやなという話をしたと思うん、僕何かそう言うたように思うからな。今そう思うたからあえて言わせてもらよん。これからは、そうして全部書いとかれ、岡山県中の。よその行事も皆。それでよろしいんじやつたらやりやよろしい。キレっしもうたから。私のはそれでよろしい。

他にありましたら言うてくださいよ。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 結婚支援のこの今こへメンバー表が出とんじゃけど実動隊というのとこれとはどういうふうな、実動隊というのはほんなら別にあるんか、それともその都度やるんか、どういうやり方すんか、このアンケートをとるためにこの会議をただけでこれなんか、その辺を説明して。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） この結婚推進検討会と申しますのは、先ほど説明でも申し上げましたとおり、今回赤磐市の若者の晩婚、未婚に対する行政的に何か取り組みないかということで内閣府のほうから交付金をいただくということに当たって、ぜひこういう官民協働してという御意見をいただけるような組織づくりからやってくださいということをして国のほうからも言われておるといのが正直なところでございまして、今市のほうは長らく歴史のある赤磐市結婚推進協議会、こちらのほうで高原会長以下ボランティアの皆さんが縁結びのために努力をされているというところが、委員の御質問でいえば、実動的な部隊としてお取り組みをしていただいているというふうに考えてはおります。ですので、このメンバーにも会長にも入っていただいておりますし、連携をしてやっていきたいということでございますので、よろしく願いいたします。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 補助金もろうたからせにゃならんのじゃというんじゃ実際に結果は出んと思う。今までのやり方で出んのじゃからそれに補助金をつけて何かしたぐれえじゃ、そりゃならんのんで、根本的に根っこから物事をやりかえるぐらいの気持ちでやらなんだら価値がねえんじゃねえかと思うんですけど、その点についてどう思いますか。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 失礼しました。おっしゃられるとおりで思っております。ですので、これまでのカップリングパーティーを先ほど委員長の御意見にもございましたとおり、マンネリ化したようなイベントを重ねるだけではどうしたものかということなどを常々考えておりましたところ、財源としてこういうものが宛てがわれることができましたということでございます。ですので、今後若者の結婚支援、結婚、出産、子育てにトータルしてつながるような施策を考えていく上で、御意見をいただける場にはなっていくんではないかというふうに考えております。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 長う言うつもりはねんじゃけど、このメンバー見てからつながるようには思えんので、そういうふう感じたから言よんで、根っこから考える。その補助金もらえるのを気負いで変えるということも必要なんじゃないかということが言いたかった。ただ、今まであるのに乗っかるんじゃなしに、ちょうど補助金をもらえた気負いじゃということで、根っこから変えるという考え方が必要じゃなかったのかなと思うんで、このメンバー見て、ほんならこれでできるようには思えんので、もう少し思考せにゃならんんじゃないかなと思います。もうそれでいいです。あとはお考えください。

○委員（松田 勲君） はい。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 僕のほうから教育委員会のほうで、きょういただいた評価表です。この前から言っている給食センターの民間委託の件なんですけど、文章は大分、18ページ、結構直してくださったんですが、それにしても、もうほとんど民間委託の方向に持っていくのかなという内容になってますけど、一応確認なんですけど、これは要するに、今の市の直接経営でいくのがいいのか、民間委託がいいのかというのをこれからしっかり検討していくんですよ。メリット、デメリットを含めてしっかりやっつけていかれるんですよ。

それと、前のページを見たら、3ページから4ページ、5ページと教育委員会の状況を書いてあるんですけど、その中に給食センターの話が全く、民間委託云々という話が出てないように思うんです。給食費の決定は出とんですけど、そういったことが出てないんですけど、教育委員会ではそういう話は出てないんですか。どうなんでしょうか。

○教育次長（藤井和彦君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 藤井次長。

○教育次長（藤井和彦君） まず、この民間委託につきましては昨年度また今年度も学校給食運営委員会を開きまして、十分な調査研究が必要という意見もいただいておりますので、決定というわけではなく、これからしっかり慎重に調査研究していきたいというふうに思っております。

それから、教育委員会議での協議がなかったのではないかとということでございますけれども、これにつきましては、28年度は定例会のほうでは協議しておりませんでしたけれども、今年度は教育委員さんと協議を重ねているところでございます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 前の中ではやられていないような感じがあるので、ぜひしっかりとまたしていただきたいのと、これは、図書館の指定管理とかという話があった後から結構委員会に報告が随時あったと思うんですけど、この前、8月の閉会の委員会に初めて聞かされて今日

に至っとんですが、これに関してもこれから検討していく中で、いろいろ報告はきちっとしていただけるのでしょうか。じゃないと、なかなか僕らも判断できないと思うんですけど。

○教育次長（藤井和彦君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 次長。

○教育次長（藤井和彦君） 教育委員会議でありますとか、給食の運営委員会で協議した事項につきまして、適宜総務委員会の皆様に御報告や相談を申し上げながら進めていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） わかりました。先日も他の県で民間の給食の問題がかなりクローズアップされました。そういったこともあるんで、本当に子供の食の安全も含めて、本当にどうしたほうがいいのか、子供を中心にしっかり再検討して、経過報告を含めて、結論をいただきたいなと思うんですけど、教育長、どんなでしょうか。

○教育長（内田恵子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、教育長。

○教育長（内田恵子君） ありがとうございます。先月の総務文教常任委員会も含めてかなり真剣にというお言葉も多々いただきました。子供たちに安心・安全、そして安定した給食のためにはどういうあり方であるべきか、また行革も含めてのことも念頭に置きながら、改めて慎重に検討をしていきたいと思っております。ゼロからのスタートとおとりいただけたらと思っております。

以上です。

○委員（松田 勲君） もう1個言っていいですか。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○委員（松田 勲君） さっき委員長のほうからもあったんですけど、学力の関係です。これ見るとわかるようなわからんような、確かに言われるとおりにだなど僕は思うんです。通常でいったら、偏差値でいくと一番わかりやすいと思うんですけど、偏差値を出せないんですよね、基本的には。これパーセントでいってるんで、正答率でいってるから、問題の、全国平均を見てもそうなんですけど、全国平均が上がってるということは、皆全体的によくなったんかと思うような気がするんですけど、問題の内容によると思うんです。だから、なかなか比較しにくいような気がするんですけど、もう少しわかりやすい出し方みたいなはないんでしょうか。

○学校教育課長（松井啓子君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（松井啓子君） ありがとうございます。御指摘のとおり、偏差値等で示される問題ではないということで、これについては平均正答率のパーセントでの国からの資料が上

がってきております。ということで、全国の平均正答率との差というのが一番伸びとかが見やすいのではないかという形で、これまでも御報告をしてきたところです。また少し検討を、研究してみたいと思います。ありがとうございます。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） ありがとうございます。これを見たら、小学校はあれですけど、中学3年生に関しては何かすごく伸びているというのがわかるんですけど、これは、中学3年生というのは産官学とかでいろいろやった子たちなんではないでしょうか。その辺の成果が出ているのでしょうか。

○学校教育課長（松井啓子君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） ありがとうございます。中学校3年生については、平成26年度に6年生ということですので、これは産官学のは入っていない状況です。ただ、現小学校6年生については、5年生のときに産官学ということが入っておりまして、4年生の問題、4年生のところで算数に随分大きな伸びが、4年から5年で伸びが見られると思うのですが、このあたりは、全てが産官学の成果であるとはなかなか言及がしにくいところですけども、当然伸びの一助にはなっているというふうに捉えております。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） 今の質問に関連してなんですけど、私たしか前回質問をさせていただいたのは、例えばこの小学校4年生で見た場合に、このグラフ見たらよくなってるじゃなくて悪さかげんが少しましになっているというグラフですよ、これ。まだゼロに到達していない。一番上がゼロになっているんですけど、平均点まで行っていないというグラフなんです。悪さかげんが本当にちょっとましになったっていう話で、前回私質問したのは、何でこういう悪さかげんがずっと出てたのに、どういう対策を打たれて、その打った対策に対してどういう効果が出たのか、効果が出てないからまだ平均点達していないでしょうと。そういう悪さかげんをちゃんと見える化してくださいよという話と、その上でじゃあ次どういう手を打つんですかっていう話を次の委員会を出してくださいって、私お願いしたと思うんですけど、どうなっているのでしょうか。

○学校教育課長（松井啓子君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○学校教育課長（松井啓子君） ありがとうございます。悪さかげんが少しよくなったというふうにおっしゃられて、言葉をかえて言えばそうなのかもしれませんが、子供の実態として、小学校4年生のときにはこの結果だったものが6年生でこれだけ伸びてきていて、同じ

学年ではありませんが、中学校でも着実に伸ばしてきているというような実態を見ていただけたらありがたいなというふうに思っております。

また、取り組みをしているからこそその成果であると思っておりますし、先ほども申し上げましたが、例えば市の施策でいいますと、35人以下学級ということで落ちついた学習環境づくりでありますとか、あと支援員の配置、それから大学生のボランティア等の登用等も行っており、個別の支援でありますとか、そういったところについてもやっている成果が出ているというふうに考えております。

ただ、おっしゃられる御指摘のとおり、まだ全国の平均には追いついていないということですが、基礎基本についてはかなり近づいてきているという実態を踏まえながら、少し授業のあり方等についてももちろん研修をしていかなければいけませんし、またもう1つ言えるのは、それぞれの学校の実態が異なりますので、その部分については学校が今改善プランを立てながら取り組みをしているところでもあります。そちらともしっかりと共有しながら進めてまいりたいと思います。

来年度に向けてということでは、済いません、もう少しお時間をいただけたらと思っております。

○委員長（北川勝義君） はい。

○副委員長（永徳省二君） 御回答ありがとうございます。お話ししたように、これ改善したって意味じゃなくて、本当によくなったというんであれば当然ゼロより上に上がらないとよくなったというふうには言えないんじゃないかなと僕思うんですけど。来年度に向けてその施策を打っているという話なんですけど、それをどういう施策を打っているのかというのを具体的に教えていただいていた方がいいですか。

○学校教育課長（松井啓子君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） 済いません、施策を打っているというか、学校のほうがそれぞれ改善プラン等の作成をしております、学校で取り組みを進めているところです。それについては個々の学校によって違いますので、全て御報告をすることができておりませんが、こちらで御紹介をさせていただくほうがよろしいでしょうか。

○委員長（北川勝義君） 言ようことがわからん。

はい、永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） 個々の学校に全て、済いません、悪い意味からいうと責任転嫁するっていうんじゃないですけど、任されてるんですか。教育委員会として、赤磐市全体として、何らかの手は打っておられないんでしょうか。

○学校教育課長（松井啓子君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） 先ほども申し上げましたが、市の施策としては35人以下学級にするための講師の採用でありますとか、それから個別の対応をするための支援員等の採用でありますとか、大学生のボランティア等の任用等も行っております。

それから、先ほども申し上げましたが産官学の連携ということで、ベネッセのタブレット、それからマイクロステップドリルの実施ということで、全ての学校で行っているわけではありませんが、そのようなものを行っております。

○委員長（北川勝義君） はい。

○副委員長（永徳省二君） その結果が平均点以下という話なんですよ。平均点が上がるような施策を打つべきじゃないかなと思うんですけど。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○副委員長（永徳省二君） はい。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしい。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） さっき松田委員が言われた給食のことなんじゃけど、今教育長ゼロからの考え方でとこういうことなんですけど、現場の実態がほんなら今までとこういうことでやってこられとんかということと考えたら、ゼロのスタートには思えんです。もう少し慎重にやってもらわにゃいけんというのが、再任用をふやして、正職が少のうなととるでしょ。高齢化しとるとのことじゃから、同じ数がおつても高齢化したら同じ作業はできようらんとする。そういう心配をしょうるから、早く結論を出して、市として子育ては赤磐市とこういうことですから、テレビでもやりようたですけど、食が一番じゃ言よんですから、国のほうも、それを他人任せにせず、運営だけじゃ言われるのはあれなんじゃけど、目線が変わってくるんじゃ、任しとると市が直営で一生懸命いろんなことを考えてやろうというんとは。決まり切ったこと、栄養面だけとかそういう問題だけじゃねえと思うんです、給食は、前にも言ったように。じゃからやっぱり食の教育というのは大事なんで、僕ら子供のときに一番楽しかったのは給食です。だから、時代が変わったから今は食べるもんが家に帰っても裕福なから皆ある言うんじゃけど、そういうもんじゃなしに、子供が団体で食べるというのは家で家族と食べるだけとはまた違うんで、そういうこといろいろ、教育長というのは前からずっと委員会におられてきとられるんじゃから僕は理解してくださっとんじゃと思うんじゃけど、理解してもらえてねんじゃなというふう思うんで、今の現場の状況と教育長が言ようられることとが合致せんのです、僕らから見たら。

だから、早う決めて、職員を採用するならきちっとせにゃいけんし、渡してしまうなら渡す、渡すのは絶対反対ですから、お願いするのは、委員恐らく皆さん反対されると思うんで。そういう気持ちで、しっかりとこういうふうにするか早う結論出してください。もう、市長にもお願いしときます。もう、それ以上言いません。

○委員長（北川勝義君） 専決すりゃええがな。専決しときゃ。何をぬかしよんな。
他にありませんか。

○副委員長（永徳省二君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） 総合政策部の1ページなんですけど、プロモーションビデオについてということで、3番の公開方法、市のホームページへアップというふうに書いてあるんですが、この市のホームページで公開する場合にスマホとか、あとパソコンのOSの絡みとか全て対応しているのでしょうか。今もう皆さんほとんど、若者はスマホしか持ってないパソコン持っていないという状態なんで、それで見れる状態になっているのかどうかっていうのを御確認します。

○秘書企画課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（小引千賀君） 御質問いただいてありがとうございます。先ほどのホームページでの動画の配信の仕方なんですけれども、今現在はおっしゃられるとおりどんなOSでも見れる状態、聞ける状態になってはいないかと思われま。3月1日を目がけて、今ホームページの改修作業を行っておりますので、その段階では、どうしてもホームページに張りつけますと重くなってしまうので、例えばユーチューブとかそういうものを活用した配信の方法などを検討させていただいております。どういったOSでも確認、ごらんいただけるような形にさせていただこうと考えております。

以上です。

○副委員長（永徳省二君） よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） はい。

○副委員長（永徳省二君） ぜひ、そういう対応のほうよろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ終わります。

その他についてありませんか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 副市長にこの前言うとお尋ねすんですが、赤磐市の実態を把握していただけたかということをお聞きしたいんですけど、どういうふうに赤磐市を見ておられるか一言お願いしたいと思います。

○委員長（北川勝義君） はい、副市長。

○副市長（倉迫 明君） 赤磐市の実態についてというお尋ねですが、私今宇野バスのほうで

通つとります。それで、来るときに赤磐市に着くまではいろいろと赤磐市のことを思いながらバスで通勤をしております。

それで、まず来たとき、自然が豊かであるし、住みやすい非常にいい町だなというふうに思いました。この赤磐市のために働けるということが、私は非常にやりがいを感じて、やっていかなければというふうな決意であります。

県庁のときにも住宅課にいたので、山陽団地のほうには来させてもらったり、それから農林部にもいたので、農林水産総合センターにもたびたび来させてもらったりということで、市のほうには来たことがないんですけど、そういうところで赤磐市を見させてもらって、いろんな事業が活発にされとるなというふうに思いました。

○委員長（北川勝義君）　きのう、きょう来て何がわかろうで、1週間や10日来たから。

○副市長（倉迫 明君）　それで、先進的な取り組みもされておりますので、やりがいを持って、生きがいを持ってやっていきたいというふうな決意をしております。

○委員長（北川勝義君）　こういうことばあ聞きゃえんか、総務委員会で、総務文教で。

○委員（下山哲司君）　その他ですから。

○委員長（北川勝義君）　その他というて、総務文教その他じゃねえがな、おめえ。

下山さん、総務文教委員会じゃから、総務文教委員会に関係あることを聞いちゃってくれ。あるんかもしれんけど、やりがいがあるのはわかっとな、そげえな話やこう副市長に聞くようになつとりゃへん。一般質問で聞きんせえ。当たり前の話じゃが。

○委員（下山哲司君）　まず、一番やっぱし認識していただきたいのは、赤磐市の課題だと思うんです。

○委員長（北川勝義君）　そんな話じゃねえわ、おめえ。

○委員（下山哲司君）　それを一番に頭の中へ入れていただいて、早く副市長というのがあれできるように頑張ってください。もういいです、きょうは。

○副市長（倉迫 明君）　はい。

○委員長（北川勝義君）　はいじゃのうて、副市長わかるというて、市長、そういうふざけた質問させたら、わしは質問さすべきじゃねえから、余り、副市長がどうのこうのって、副市長になった時点で赤磐市のことしてもらわにゃおえんがな、わかるわからんじゃのうて。これから勉強してぼりぼりやってもらいうて、違ふとらあ。それから、総務文教委員会でそねえなことやる話じゃねんじゃ。やりたかったら2人でやりんせえ、本会議でも。ふざけてしもうて、今度は、はいじゃくそじゃ言うな、そういうこと言うんならわしらけえからずっとこれから副市長に聞いちゃるで、新しい部長になったらどういう考えなというて全部聞くぞ、これから、ええんか。そんなこつちやなかろうがな、委員会しょんのに。まあ、よろしいわ。

もう他にありませんな。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なけりゃ、これで総務文教委員会終了したいと思います。
終わります。

○総務部長（前田正之君） 委員長。済いません。

その他の項の説明をさせていただくのに、水原建設事業部長と加藤建設事業部参与の入室の許可をお願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 許可します。

〔建設事業部長 水原昌彦君、建設事業部参与 加藤孝志君
入場〕

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 何なら。また違うこと言うんか。

○財務部長（直原 平君） いや、先ほど言いました専決の案件について、資料のほうをお配りさせていただいてよろしいでしょうか。

○委員長（北川勝義君） 資料配らにやどねんするんなら、おめえ。おめえ、専決って何なら、おめらの思うとおりにせえや。

よその課のこっちゃがな、することはねえがなこねえなこと、おめえ。これ、よその課のこっちゃろうがな。担当委員会じゃなからうがな、うちの。

直原部長、うちの担当委員会か、これは。

○財務部長（直原 平君） 衆議院議員の関係もごきますんで……。

○委員長（北川勝義君） 衆議院じゃったら、それだけやりやええがな、うちの関係、どれが衆議院な。衆議院だけじゃろ、うちは。

○財務部長（直原 平君） はい、そうです。そうですけど、一応その後の件がごきますんで。

○委員長（北川勝義君） そねえなことを言ようったら、どっこもやらにや、今までしとりやへんじゃねえか、せえなことは。

議長、お尋ねすんじゃけど、僕はずうっとどっかかしの委員長しとるけど、関係ねえとこの委員会のことは質問やこう、わし受けるようになってねんじゃけどな、衆議院議員じゃって、ほかのとき今まで受けたことはねえで。

○議長（金谷文則君） 委員長よろしい。

○委員長（北川勝義君） はい、金谷議長。

○議長（金谷文則君） この件については両方にまたがることだと。それで、厚生も含めて社会福祉のことがあるので、このことについてはぜひ委員会で、3つの委員会で説明させてほしいという申し出がありましたので、ぜひそれなら説明はしてくださいというふうに申し上げました。

○委員長（北川勝義君） 本会議やりやえかった、臨時議会を、そういう質問やこなら、せん

でもええが。

○議長（金谷文則君） 急に來られたもんですから、その話はしましたので、御理解ください。

○委員長（北川勝義君） どこがかかわっとんな、直原君。総務に。

○財務部長（直原 平君） 総務は1の総務費の選挙費……。

○委員長（北川勝義君） 総務文教委員会、どこがかかわっとんなら。それだけじゃろがな。

○財務部長（直原 平君） それから、2の一番最後の自動運転車両によります実証実験事業、これもございますので。

○委員長（北川勝義君） それのどこが総務文教とかかわっとんな。自動運転が総務文教とどこがかかわっとんな。せえなら総務文教でやれえや。

○総合政策部長（作間正浩君） 公共交通の一端を担うものとして関連が出てきますので。

○委員長（北川勝義君） それやったら公共交通やるというて書けや。それやったらうちがせにゃおえんがな、総務がせにゃおえんがな。総合政策部がせにゃおえんがな。予算をつけとって、そっち行っとんのに、今まで説明すりゃへん。予算は総合政策部について、事業は建設がするんじゃとか、産業がするんじゃとか、説明もありゃへんがな。じゃったら、入れることはねえじゃねえか。うちがやらにゃおえんなら、うちにつけにゃおえんじゃねえか。局長違うんか、おめえ。予算つけるところが。総合政策部につけにゃおえんのなら、総合政策部、山陽団地のことがある、山陽団地のことでやるんじゃろ。

○総合政策部長（作間正浩君） いやいや、じゃあない。

○委員長（北川勝義君） 何を言よん。産業ですりゃ、産業でやってもらやええがな。

○総合政策部長（作間正浩君） 委員長、公共交通の一端を担うものとしての実験ですので、まちづくりの一環として実証実験をさせていただくということでございますので。

○委員長（北川勝義君） それじゃったら、うちがつけりゃええがな、予算を。

○総合政策部長（作間正浩君） いや、ですが、公共交通としてまだ取り入れると決まったわけではないので、まちづくりの一つの考え方としてやっていこうということで……。

○委員長（北川勝義君） まちづくりはうちでするんじゃろ。

○総合政策部長（作間正浩君） いや、まちづくり自体は都市計画課でずっと……。

○委員長（北川勝義君） ほな、都市計画課でやってもらやええがな。

○総合政策部長（作間正浩君） ずっとやられたんですけど……。

○委員長（北川勝義君） ええがな、それで。

○総合政策部長（作間正浩君） それで関連がないのかというたらありますので、市長の特命事項として新しくできた地域整備推進室のほうで担当しとりましたので、そこから説明させていただきますということで上がらせていただいております。

○委員長（北川勝義君） ようわからんな。市長もぼっけえ疲れとりやすまあがな、おめえ。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 済いません。補足させてください。

○委員長（北川勝義君） 何が橋本准教授じゃというてからすんな。

○市長（友實武則君） 今回御提示させていただく自動運転車両のことについてですけども、これは全く新しい試みで、今までのこういった事例はございません。そういったことから、全く新しいということで……。

○委員長（北川勝義君） ねえんじゃったら、臨時議会でやりやええんじゃがな。

○市長（友實武則君） これを担当の常任委員会のみならず、3常任全ての委員さんに説明をしておく必要があると判断し、議長のほうにお願いをした次第でございます。何とぞ御理解のほうよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 市長、議長、せえじゃったらこそ、臨時議会をせにやおえんじゃねんか、おめえ。3常任ですんじゃったら。おかしんじゃねんか、おめえ。どこの世界にそねなことがあるんな。わかった、松田君意見言うてくれりやええぞ。じゃろうがな、3つかけにやおえんことをせにやおえんじゃねえか、おめえ。ええかげんなことええええというて言うな、おめえ。やることは悪いやこう言ようらへん。順番が違うし……。

○委員（松田 勲君） 事前打ち合わせされてないんですか。

○委員長（北川勝義君） 事前打ち合わせやこしとりやへんがな、あんたしとんじゃろうがな。

○委員（松田 勲君） いや、してない。

○委員長（北川勝義君） わしゃしとりやへん、何にも。何を事前打ち合わせした。事前打ち合わせしたか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 黙って下山さん、ええ格好ばあ言わんと黙っといてくれ。違う……。

○委員（下山哲司君） 議会運営の流れがかかわってくるんじゃったら、委員長がするじゃせんじゃと言うてもろうたんじゃ議運のメンツがのうなるんで、そういうことを言わんようにしてよ。

○委員長（北川勝義君） ちょっと議運のメンツって何を言よん、またわけのわからん。これはまちづくりじゃと、そっちですりやええがなと、うちでするこっちゃねえがなと言よんじゃ。何を言よんなら、そねえな話しようらへんがな。議長が言ようる、議長も臨時議会をしてほしかった言うんじゃ、それをせなんだ、何をあんたが議運の委員会の云々言うんだったら、

言え、自分でこけえやってみい、おめえ。ふざけるな。

○委員（下山哲司君） 全協というあれは……。

○委員長（北川勝義君） 全協じゃねえ、違う。

○議長（金谷文則君） 委員長。はい、済みません。

○委員長（北川勝義君） はい。

○議長（金谷文則君） 委員長も皆さんもおっしゃっておられるんですけども、この話が私のところに来たときには、臨時議会をしてやるべきであろうという話を申し上げております。それで、どうしても専決でいろいろ考えたいということでしたので、日にちがないということでしたから、全ての委員会で関係がしてくることなら説明をしてくださいというふうに申し上げましたので、それは御理解いただければと思います。

○委員長（北川勝義君） 議長な、ほかのことについては全部そろろうとしても、議員のあれができませんから待ちますんじゃというて、ずっと待って3カ月ぐれえ延ばして、これだけは延ばさずに、そねん急ぐ、どういう急ぐ理由があったんならということのをわしが聞いたかったんで、それを言ようるわけ。

これがあした死ぬとか、救急車を買わにゃおえんとかというんじゃったら、そりゃもうやってくれ言う。言っちゃあ悪いけど、そなんじゃねえがなという話をしょん。それやったら、もしすんじゃたら、産建だけでやったらええんじゃと。報告で終わります、こうやりたいんです言うんじゃたらええけど、報告じゃ、皆連絡から、皆説明しとかにゃおえん言うんじゃたら報告じゃねえがな、そねん言よんのがということのを言よんじゃ、僕は。それを下山さん、議運のあれが関係あるわけがねえが、そんな話ししょったら、大分眠とうなつとるが。おかしい、市長もやりようることが。そうやって決めて推し進むんやったらやれ、これ全部じゃやってくれりゃええんじゃ、もうどうこう言うんじゃねえ。専決するのは市長の権限じゃから、専決処分にするんじゃから、そうじゃろ。奥田君そうじゃろ、専決処分は。

○議会事務局長（奥田吉男君） はい。

○委員長（北川勝義君） 市長の権限じゃろ。

○議会事務局長（奥田吉男君） そうです。

○委員長（北川勝義君） すりゃよろしいが、専決。したことにどうこう言うことはうちの関係がありゃへんがな、おめえ。あるところに、まちづくりしようところでやりゃええがな。ここで説明するという、そねえな説明することはねえわや、ほんま。関係ねえ、厚生のとこを先にしてうちが後になるというようなこと、それどこにあらうでと思うけどな、僕は。

皆さん説明受けますか、受けるなら受けたってください。専決とるんじゃ受けるというんなら。これから専決したら皆説明せなおえんよ。はっきり言うとか、説明せにゃおえんで。これはしますこれはしません、さっきの話をしちやいけんのんじゃ、すんじゃたら全部せにゃおえんのじゃ一貫して。せんでもええ、もしせんというて、これだけはしてくれ言うたらせに

やおえんとか。下山さんが全協やりゃええ、全協やりゃよろしいが、全協、議長がやるんじや、議運の委員長が全協せえとかじゃねえんじや、まあ別にええんじやけど。

これからそうすんか、やるんじやったらやりゃあええけど。ええときだけこれをして、こっちはこうじゃけ、都合の悪いようにじゃいけんよ言うたん。理解もらう……。

○総合政策部長（作間正浩君） 委員長、済いません。

○委員長（北川勝義君） 部長。

○総合政策部長（作間正浩君） 今いろんなお話が出ておりますが、専決につきましても、きょう説明させていただく内容は先に出て説明不足などこあったんですが、これからちょっと説明させていただきます。

議員の皆様方が寄られる機会が、常任委員会が今週ございましたので、その場で全員の委員さんに説明させていただくということでやらせていただくように御配慮いただきました。その全員についてというのがどうしてかと申しますと、この自動運転の車両を用いました実験のときに、委員さん皆さん方に乗っていただいて、最新技術に触れていただいて、いろいろ御感想とか御意見をいただきたいという気持ちがございますので、あえて全員の方に紹介させていただくということで、そういう機会を設けさせていただいた次第でございますので、お腹立ちでしょうが、ちょっと御了承いただいて、お話のほうを聞いていただけたらと思います。

○委員長（北川勝義君） 内容はええんじや。違うんじやというて話ししょんじや。これから全部するんかというて聞きょんじや、専決したときには、関係ねえともやるんかというて聞きょんじやが。それを言よんじやがな。何を言よんな、おめえ。それをやるんかな、市長。これから関係ねえともあったら全部やるんかな、関係ちょっとあるというたら皆あらあや、大風吹きゃおけ屋が論理じや、皆関係ある委員会の。全部説明するんかな、これから。これだけはやるんじやと、ええのはやる、ええと思うたらせん、そうするんかということと言よるわけ。それを言よるだけじや。そんな話を言ようりゃへん。

○委員（下山哲司君） 議長受けたんじやろうが、じゃから説明してもらやええんじや。

○委員長（北川勝義君） またわけわからんこと、僕の言よること理解せにやおえんで、下山さんも、委員さんも、皆執行部も。専決受けたのは、議長が専決受けた、議長が受けたらよろしいが、議長。それとここで説明するのは関係あるのを説明するんじや、関係ねえのもこれからも全部するんかというて、前はせなんだから、今度するんかということと言よんじやがな。それが議長が受けて、そねえなこと説明できるか、議長。そねえな権限があるんか、議長は。あるもんか、おめえ。

○委員（下山哲司君） 議長は権限あらあや。

○委員長（北川勝義君） 下山さん言え、ほんなら意見をぴちっと。あるんじやったら言うてみね、どういう説明で、根拠を。言われ。

○委員（下山哲司君） 説明してもろうて。

○委員長（北川勝義君） 誰に。

○委員（下山哲司君） 委員長が進行すりゃいい。

○委員長（北川勝義君） ほんな下山さん、あんた説明できるなら言うてください。

下山委員。

○委員（下山哲司君） 何を。

○委員長（北川勝義君） じゃけ、今のことよ、専決のこと。

○委員（下山哲司君） いやいや、説明するんじゃないねん、これ。

○委員長（北川勝義君） 違う、あんたが説明する、どうしてここで専決、今も聞きょうらんが、あんた。

○委員（下山哲司君） 議長が各委員会でもらういうて受けたというんやから、してもらやええ。そうじゃろ、議長。

○議長（金谷文則君） そうです。

○委員長（北川勝義君） 議長、各委員会で決めて、僕ら知らんのに委員会で決めて、関係ねえのを全部これから説明、議長が決めて皆受けていくんですかということと言よんで、これからも、黙っとかれ、要らんことばあ言わずに、肝心なことはよう答えんのに。議長がこれから説明せえいうことを言われたら、全部これからそういうやるんですかというん、今後はどうするんですかということと言よん、今後もそうするんですよというんじゃないたら、わかりましたというて。その確認をとりよんじゃ。

○議長（金谷文則君） はい、済いません。

○委員長（北川勝義君） はい、議長。

○議長（金谷文則君） ちょっとそのことについても、私も執行部のほうには申し上げております。今回だけ特別とかっていうわけにいかずに、今までやってきてなかったものを、ずっと話をしていくということになったら継続してやってかないかんし、今まで何にもなかったというのもおかしいことになるよという話も申し上げた中で、今回は特別にどうしても11月17日か8日だったか……。

○委員長（北川勝義君） なぜな、それは。

○議長（金谷文則君） そこにそういうのをやりたいということの強い申し出が市長のほうからありまして、専決をするんなら、専権事項は市長の専権事項ですから、私たちがするなということは言えません。しかし、臨時議会を開いてくれということの検討をせえというようなこともなかった上でそういうことをされるのは、きちっと議員のほう、皆さんに説明をしてもらわんことにはだめですよと、こういうことを申し上げて、最終的に私の判断で3つの委員会できちっと説明をしてくれという話をしました。

それで、その3つの委員会でというのも、それぞれ山陽団地の中の福利厚生の中の一部として関係があると、それから今総務文教委員会の交通計画の中に関係がある、それから産建のほ

うの所管として関係があるということで、3つに関係があるのでということでございましたから……。

○委員長（北川勝義君） 産建じゃろ、こりゃ。

○議長（金谷文則君） 基本的には産建にこの話はしました。そういうことで、最終的に私の判断として、全ての議員さんにきちっと説明をしてほしいということを申し上げて、この機会でもありますので、ぜひ御理解をいただきたい思います。

○委員長（北川勝義君） 議長、それりゃいけん。さきに言ようことはええことじゃ、最後はいけん。特別じゃねえ、これからするんじゃったら先に、最初に言うたこと、これからここで出すんじゃったら今後もしてくれという、それじゃったらオーケーじゃ。そうじゃなかったらおえん。言ようことが支離滅裂。どっちが言うことかわからん。

○議長（金谷文則君） それも、言うてあります。

○委員長（北川勝義君） ぴちっと、じゃから執行部にそれをしてもらわな、議長も受けたんじゃったら、それをしてもらわな、それ条件じゃねえと受けれん。そんなもん勝手にやられたらたまったもんじゃねえ。それは全部やってもらわな。

○議長（金谷文則君） だから、今の専決をしたりするのは……。

○委員長（北川勝義君） わかっとる。そねなことは。

○議長（金谷文則君） わかるよね。

○委員長（北川勝義君） じゃけ、それを僕さっきから言よるが、今後も説明するんかせんのか、どっちならというて聞きよるだけの、答えんのじゃが言ようことを。ああじゃこうじゃあ……。

○議長（金谷文則君） あとは執行部、私から申し入れがあったことに御答えをいただきたいと思えます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 済いません。専決処分の報告ということでございますけども、今後専決処分に先立って、閉会時の常任委員会等の機会を使わせていただいて、これからなるべく前もっての説明に心がけたいという思いを持っております。

それについて、案件をどういう形でやるかは、事務的に協議をしながら決めてまいりたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 結論はこれからもやるということじゃな。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） それを確認、たったそれだけ確認したかったんじゃ。それをあんたら確認するのを、だあだあだあ言よるだけじゃから、長うなるだけじゃねえか。

議長が言うたけ何でもできる、委員会と議長は違うから、議長わかりようる、言ようることは。勘違いしてもらったら、議運とは全然違う話じゃから、勉強せにやおえん。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） あんたがすんじゃなかろうが、今度はほかがすんじゃねんか。

○財務部長（直原 平君） わかりました。

○委員長（北川勝義君） あんたがすんじゃったら、委員会じゃけえ、違うことをすな、おめえ。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 建設事業部、加藤。

○委員長（北川勝義君） どうぞ。

○建設事業部参与（加藤孝志君） それでは、資料に基づきまして、自動運転車両の公道の実証実験の実施についてという内容を説明させていただきます。

○委員長（北川勝義君） 専決じゃねんか、これ。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 表紙の2番、平成29年度赤磐市一般会計補正予算（第5号）、これはまだ案の段階であります。

○委員長（北川勝義君） 専決したんじゃねんか。

○建設事業部参与（加藤孝志君） いえ、この案件につきましては、専決予定になっております。

○財務部長（直原 平君） 専決は1番。

○委員長（北川勝義君） 何、ちょ待って、直原君どうや。専決何や。

○財務部長（直原 平君） 今の時点で専決をさせていただいておりますのは、1枚目の1番、第4号につきましては9月28日、この日付に衆議院議員選挙等……。

○委員長（北川勝義君） そっから説明して、そっから順番に。

○財務部長（直原 平君） そうですか。わかりました。

○委員長（北川勝義君） 直原部長。

○財務部長（直原 平君） それでは、説明させていただきます。

9月の定例議会の終了後に補正予算の案件が発生いたしましたので、地方自治法第179条の規定によりまして、専決処分について今回説明をさせていただきとります。

1の平成29年度赤磐市一般会計。失礼しました。4号につきましてはそこに書いておりますように、歳入歳出予算の総額に3,152万3,000円を追加し、191億4,117万4,000円とさせていただいたものでございます。

内容といいますと、2款の総務費、4項の選挙費、9目の衆議院議員選挙費、これは10月22日に執行されるものでございまして、そこに書いております第48回衆議院議員選挙及び第24回最高裁判所国民審査でございます。このものが2,152万3,000円。

6款農林水産業費、1項農業費、5目の小規模土地改良事業費につきましては、日古木・南

方の農道整備に伴う経費、これがちょうど1,000万円でございます。

この2件につきましては、9月28日に専決補正をさせていただいたものでございまして、今回総務文教委員会ほか3常任委員会で報告をさせていただくものでございます。よろしくお願いたします。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、続けてどうぞ。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 2番、平成29年度赤磐市一般会計補正予算（第5号）（案）。

これは、自動運転車両による実証実験事業費約300万円を現段階で補正を予定しております。それに伴う専決も今まだできていない状況で、今後やっ払いこうというふうに考えております。

現段階で実証実験の実施に向けて関係者と協議を行っており、最終金額の確定はまだ現段階で至っておりません。このため、今回専決処分はまだ行っておりませんで、これから説明させていただきます実証実験の実施ないしはその準備等々を勘案した結果、臨時議会等に付す時間に余裕がないと判断させていただきまして、今回専決処分とさせていただきたいと考えております。

それでは、2ページ以降の資料に基づきまして、事業の内容について説明させていただきます。

赤磐市には団地形成から50年を経過する山陽団地、岡山市のベッドタウンで良好な住環境や交通の利便性、それを持った団地があります。しかし、この団地につきましては老朽化によるまちの空洞化や住民の高齢化、いわゆるオールドニュータウン問題に直面しておりまして、市ではこの問題を討議する有識者会議を立ち上げ、問題の解決に向けて努力していこうと考えております。

その中で、最先端の交通手段であるEV、電気自動車ないしは自動運転などの導入でインパクトのある事業を実施することにより、まちのイメージチェンジやマイナスイメージの払拭、特色あるまちづくりなどを提案していきたいと考えております。

まず第1としまして、高齢者などの交通弱者などの課題があると思います。オールドニュータウン問題の一つに高齢化による運転機能等の低下、免許返納等による交通弱者の課題というものがございます。その課題の解決の一手法として新たな交通システム、今回やっ払いこうと考えております自動運転機能を有した車両による交通政策というものがあります。これは、一般車両にも一部機能が現在搭載され話題となっておりますシステムであります。この自動運転の分野、近年目覚ましい発展を遂げているものと考えております。

この実証実験をやっ払いこうというところまでの経緯につきまして、簡単に御説明させていただきます。

山陽団地有識者会議の中で、会議の当初、自動運転車両を用いた交通弱者の対策ってという話題があったことから、赤磐市としてこの分野に着目し、山陽団地への自動運転車両、さまざまな車両を用いた自動運転車両の運行の有用性、有益性、これをこれまで継続して検討してきたところでございます。

そして、岡山大学の橋本准教授により、急な話ではあるが、山陽団地をフィールドとした民間開発の自動運転車両を使用した実証実験、これが実施できないかという提案がございました。この提案を受け、赤磐市と岡山大学においてこの実験の実現可能性について検討しております。赤磐市としましてまず1番は、警察における実証実験の御理解をいただくこと。岡山大学につきましては、この実験というものがですね……。

○委員長（北川勝義君） 途中読まず、読め、全部。

○建設事業部参与（加藤孝志君） はい。

○委員長（北川勝義君） 飛ばさずに。

○建設事業部参与（加藤孝志君） わかりました。

○委員長（北川勝義君） 嫌なところは飛ばすような読み方すな、おめえ。

○建設事業部参与（加藤孝志君） わかりました。

それでは、2の実証実験までの経緯につきまして説明させていただきます。

有識者会議においても、岡山大学橋本准教授（有識者会議委員）より、自動運転車両を用いた交通弱者への対策について提言があったことから、市としてはこの分野に着目し、山陽団地への自動運転車両運行の有用性、有益性を継続して検討していたところ、同教授より、急な話ではあるが、山陽団地をフィールドとした民間開発の自動運転車両を使用した実証実験を実施しないかという提案がありました。

この提案を受け、赤磐市と岡山大学においてこの実験の実現可能性について以下のとおり役割を分担し模索しました。赤磐市としまして、自動運転車両の公道における実証実験としての実現可能性、警察における実験実施への了承、実験内容、車両、システムなど安全性の確保に関する検討。岡山大学としましては、3Dデータ実証実験の実施可能性、コース設定、データ取得、分析方法、アンケートによる調査検討。以上のような役割を分担しております。

3としまして、実証実験の内容の検討です。

提案の実証実験は、近い将来自動運転システムの主流となる高精度3次元地図を利用した自動運転というものでした。このシステムは、通行する道路の高精度の3次元地図、数値データベースを車両の運転制御システムを初めとしたシステム装置が認識し、自動運転を可能とするものです。その他の自動運転システムとしては、カート式小型車両による自動運転があり、これはゴルフ場などでよく見られるものですが、道路内に埋設された電磁式導線に導かれるタイプのものがあります。このタイプでは事前のコース設定から工事完了まで入念な準備が必要です。

提案の実証車両等の検討においては、将来的に山陽団地等大規模団地において、地方自治体の公共交通政策、交通弱者の移動手段となり得るものとして実現性の可能性が高いことなどの条件を考慮した検討の結果、市販車両を使い、将来的な実現性と発展性を備えていることから、この3次元地図方式を採用することとしました。このタイプは国土交通省における実証実験でも使われております。

一番最後の5枚目のページで、参考の1という資料をつけさせていただいております。この4タイプ、現段階で国土交通省のほうで検討ないしは実証実験に採用されております車両の種類を上げさせていただいております。今回、このタイプ、今回の実験で使わせていただこうと考えておりますのは、④番、通常の車両、自立型技術という形になっております。

また、その参考資料に高精度3次元地図の例という形を示させていただいております。高精度3次元地図というものは、現段階の道路の空間、これにレーザー光線等を照射することによりレーザースキャナー測量を行い、3次元の構造物ないしは道路附属物、道路の路面、そのデータを数値的に全て解析させていただき、下面にある地図、若干見にくいんですけども、このような3Dの地図データというものにしていこうと考えております。

資料に戻りまして、2ページの4、協定の締結。

この実証実験に当たっては、それぞれの役割と責任について定めた協力協定を結び、それに基づき実証実験を行うこととしております。協定を結ぶ4者につきましては、赤磐市、岡山大学に加え、国内に5台程度しかない自動運転車両を持ち、国土交通省の実験でも使用されている実績を持つアイサンテクノロジー株式会社及び国際航業株式会社を協定先とすることとしております。説明が抜けております国際航業株式会社におきましては、この高精度3次元地図の作成についてその技術を持っております。

今回の実証実験の意味につきまして、自動運転車両による実証実験をこの赤磐市の山陽団地周辺において実施することは、全国各地で発生しているオールドニュータウン問題を抱える課題の高齢者などの交通弱者対策、地域住民の移動手段の確保など、課題解決の一つとして全国では例を見ない先駆けとなる事例となることを考えております。

こうした最先端技術が導入できるフィールドとして、今後自動運転技術の発展に寄与する地域、同団地のイメージアップにつながり、人が出歩くまちとしての活性化に寄与することとなるなど、ひいては赤磐市の全国的なPRにもなり得ると考えております。

続きまして3ページ、自動運転車両の実証実験の概要です。

実証実験におきましては、下の3に示しております緑色で示した地図のルートを今回の実証の実験のルートと考えております。弥生公園を起終点としまして、山陽団地の西側を周回する道路ないしはその後真ん中の道路を通りまして、ゆめタウンのところで旋回をして戻ってくるというルートを設定させていただいております。

今回実証実験におきましては、11月18日の土曜日、雨天決行で実施します。車両1台で実証

実験ということで、モニターに関しましては30名、これは自動運転車両の乗車体験ないしは乗車前、乗車後の意識に関するアンケート調査を実施させていただこうと考えております。期間につきましては、11月16、17で自動運転システムの最終チェックをさせていただく。その中で、18日に今回の実証実験本番、モニター調査ということを考えております。17日午後には、関係官庁及び赤磐市議会の議員の皆さんも試乗していただく時間というものをとっており、体験していただくことが可能となっております。

今回のルートは5.1キロというルートで、約15分間の走行になっております。これにつきましては、一般車両の通行等は規制をかけず、今回の自動運転の車両というものを走らせるという実験になっております。

続きまして4ページ、実験車両につきましては市販の車、トヨタ社製のエスティマにデータ及びシステムを搭載しており、今回遠隔操作をしないタイプの車両となっております。この自動走行のシステムというものは、先ほど言いました高精度3次元地図を各車の中のシステム、このオートウェアというのが運転システムなんですけれども、このシステムの中で自分の位置を把握しながら、信号、標識、その他周辺環境の飛び出し等の障害物、それを勘案しながら自動の走行、加速、減速、ブレーキ含めてさせていただくというふうになっております。

また、実験につきましての安全確保については、事前に県警本部ないしは赤磐警察署に協議のほうをさせていただき、その安全性というものの確認をしていただきました。まず、警察庁におきまして、こういう実証実験における自動走行システムに関する公道実証実験のガイドライン、平成28年5月に策定されております、このガイドラインに基づき、私どもも実証実験の計画というものを立てております。

また、今回の実証実験におきましては、緊急時、あつてはならない事態というふうには考えておりますが、緊急時の必要な作業を行うため、ドライバー席には、運転には寄与はしませんけれども、運転席にまず1人ドライバーという形で座とります。また、システム異常の検知を素早く行うために、同乗者システムオペレーターを1名車内に配置し、合計2名の操作員を車内のほうに配置いたします。また、さらなる安全の確保ということで、実験車両の前と後ろには今回の実験に伴う車両というものを前後に配置します。この車両が自動運転走行の車両を操作するものではありません。自動運転の走行の安全を確保するために前後に車両を配置しているというふうに考えていただければと思います。また、所轄警察との協議を今後行っていく上で、ガードマン等の配置も検討しております。また、公道実証実験というものをやりますので、市民、地域住民の方々に対しては事前に十分周知、予告をさせていただくことと、あと当日も実証実験中ということはお知らせしていきたいと考えております。

以上で資料のほうの説明を終わらせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 説明が終わりました。

何か質問はありますか。

なかったら、僕が言う。また、後から言われなよ。

まあ、質問するけえ、実証実験300万円して、これも業者決めてというて、岡大の橋本准教授が言うたからできるというて、どうもこれをやるということは将来的には、こねえ急いで11月17日や18日にどうしてもやらにやおえんというて議長が言うた、これ説明あってわかった。いうことはもう、来年度当初予算ぐれえつけるいうこっちな、えかったら。当初予算つけるって何億円ぐれえかかるんな。何ぼかできるわけじゃな、結論的には。何も見込みがねえのにやってみて、ここはヘリコプター飛ばして遊んでみたからえかったんじゃというて、300万円かける価値があるというこっちな。

○建設事業部参与（加藤孝志君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 今回実証実験、1回だけの実証実験でイベント的にやりましたという形で終わらせるということは考えておりません。この実証実験、もともと実験でありますから車両のシステム自体も今後まだまだ開発を進めていく必要があるというこで。

○委員長（北川勝義君） そりゃ業者がするんじやろう、開発は、うちがするんじやねかろうが。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 今回の中でも、まずオールドニュータウン問題の中で住民の皆様は今後自分たちの移動の足を確保するというものを……。

○委員長（北川勝義君） オールドニュータウン何と言うたん。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 一つの方策として体感していただくというものであります。こういうものが今後近い将来飛躍的に発展していくと考えておりますので、今回の住民の方々の活性化に寄与させていただき、今後その実験の有効性について実証していきたいというふうには考えております。

また、今回山陽団地のみを対象としたような実験になっております。今後はさまざまなエリア、この自動運転というものがさまざまなエリアに必要な施策であるというふうにも私ども考えておりますので、いろいろな分野で、いろいろな場所で実験ができていったらというような検討を今後進めていきたいというふうに思っております。

○委員長（北川勝義君） いやいや、そんな話じゃねえ、道路法の関係がある、当分できんのんじやろ。来年の4月やこう不可能なんじやろ、1億円つけても、2億円つけても、不可能なんじやろ。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 現段階で……。

○委員長（北川勝義君） 現段階でできんのんじやろ。実証後の試験は、こういうことはできても。

○建設事業部参与（加藤孝志君） はい。

○委員長（北川勝義君） できんわけじやろ。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 民間的な移動の手段としては……。

○委員長（北川勝義君） じゃあから、できんわけじゃろ言ようんじゃ。できんのに何でこねえ早う早うというてせにゃおえんのか不思議でかなわん、300万円かけて何をする意味が、橋本准教授が言うたら何でもするんか。書いとるけん、准教授が言うたら、別に橋本准教授知らんけど、悪う言よんじゃねんで。ここの人は、赤磐市の市議会議員やこうは、弁護士があんた違うで赤磐市はこっちの法律があるというんじゃけど、そんなもんか。むちゃくちゃな、よう下山さんが言うた、そんなもんか、おめえ。

僕何が言いてえというたら、次に行くんじゃったらええんじゃけど、これ道路交通法の関係が来年の3月にできていくんじゃとかというんじゃたらええけど、反対しようんじゃねえ、やるのは、300万円ぐらい惜しいことはねえ。あんたの金で、僕の金じゃたらせんよ、僕は、僕の金じゃたら。赤磐市の金じゃけえ、どぶへ捨ててもええけやるんじゃ、やりやよろしい。僕はそう思ようけ、もう決めてやるんじゃたらええんじゃけど、いつごろやるんかというのを聞いたかった。いつごろ予定がある、計画あるん。

例えば言うたら道路交通法の関係にもらんで、来年の夏にはできるんじゃとか、秋、来年の秋や夏にできるんじゃたら、今から慌ててここで専決してまでやる必要はねんじゃねんかと思うたということ。専決が悪い言よんじゃねえ、専決は権限じゃけど言ようるわけじゃ。あんたの情熱もわからんことはねえしやりてえ、ということと言よんじゃけど。どんなんで、こりゃ、見通しというのは。大体見通しも、市長も、見通しがあるんじゃろ、いつごろやりてえという見通しがあって、じゃけんいきよんじゃねん。見通し全然ねんかな。近い将来というて、10年後のことやったらそう慌てることはねえ、また次考えりゃええけど、来年ぐれえなら、もう動くんじゃというて、公明党偉えんじゃけ教えてくれよ、あつたら、ありやすまあがな。動くわけねえが、そんな話が。事故をしたときやこうの責任を僕は言いたかった、答えてくれりゃええ。市長、どんなん、いつごろ見通しになるんで。見通しはねんかな、あるんかな。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） この自動運転の実用化の見通しという質問でよろしいかと思うんですけども、これはまだ実用化の見通しが立ったというものではありませんけども、かなりのスピードで開発が進んでるということは私じゃなくても、皆さんもテレビの報道や新聞等で御存じのとおりと思います。

そういった中で、赤磐市、特に山陽団地でいわゆるオールドニュータウン問題、こういった問題にかかわっていて、その有効な解決策の一つとしてこの自動運転は有効だということは皆さんの御理解も得られると思っております。そういった中で、全国に先立ってこれを実証実験し、その有用性、有効性を確認しながら情報発信に使っていければという思いで今回お願いをするものでございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 市長、そんなこと僕聞きょうらん。僕、いつごろになる予定ならということを知りゃ、大体。僕が言いたかったのは、何か偉え人が東京におるが、東大出た、月へ行くんじゃ、ロケットの開発するんじゃというてずんずん遅うなりようるが、そんなことを言うても、家族旅行で月へ行くことはいつになるんで、20年ぐれえ先の話とか、30年後の先を今とんとんとんとんやっても、見通しが例えば1年後にはなるんですよとかという、なっていくんじゃったら、可能性、そういうことを知って、そういうことを出されとんじゃろうというて、その関係者やこうじゃな、じゃけえどうなりよんならということを知ったわけ。これをやって、僕何が言いたかったか、このチャンスを逃したら、この会社とか国とか岡大のほうへ協力しちゃうんというて次へ行くんじゃと言うんじゃったら、これを逃がしちゃうけんというのはあるんじゃけど、あるんなら、そうじゃと言うてもらやええわけじゃ。

例えば、もっと言い方、意地の悪いことを言うたら、なぜここだけじゃねえとおえんのんならという議員もおらあや、いつも言う議員が。ベネッセとしたらどうしてベネッセな、ほかにも早稲田もあるうが、慶応もというんと、別にええんじゃけど、そんな話ししょんじゃねえ、ええんじゃけど。どうして11月のこの日じゃねえとそこの会社が受けませんよ、できませんよ、岡大が言うから、うちも仕方がねえけ11月にさせてもらいてえから、こういう大事なこっちゃけえ専決も、1年後になるかもしれんけど専決でやらせていただくんじゃというて言うたら、市長、わしはわかるで、納得、言よんのが。

岡大の橋本准教授が言うたけん、そねえな話はナンセンス。赤磐市のあんたらのやり方、全部、誰々が言うたけんしょんじゃ、私がこういうことでやるんです、市長で、だからやらせてくださいよと、日にちは相手がこう言うてきとるけこうですよというて言わにゃおえんのじゃ。これ、答えなんじゃ。こういうて言うたら、あ、そうか仕方ねえ、そう出てこんからおかしいと思よん。僕はそれを言いてえ。

それで、今言うのは、法的関係もあったけど、実証してからの結果、さっき言うた、1番に言うたように、今後どうするんかというのがそのことじゃったんじゃ、今。

せえから2番目は、今市長が言うた道路交通法の関係も言うたけど、それはまあわからにゃえんじゃ。それから、最後言ようった答えがそういう意味の僕の考えで。

それから、事故の場合責任は誰がとるんならと、その他の地区のことまでというたら、今後計画していくというて言われたけど、どうやって計画していくん。見通しがあるんか、これが済んだら、例えばまた専決つけて、12月補正でもして1月には赤坂地域をやってみるんじゃとか。

はっきり言うて、交通渋滞があって、いろいろ足のことがあるけど、ネオポリスの中でも本当に高台にあって、本当に店がのうて、通勤に困る人もおられる、弱者は。吉井は特に吉井の是里だけの話をしょうるって、とって言ようる、来てみられ、あんたら。副市長も是里行って歩いたことなからう。平山でもどこでも、店も1件もねえともある。どうやってするんか、

布都美でもあるわけ。だから、そねんときは、それは今度1番にとりあえず山陽団地のところをやらせてもらうんじゃないかと、それから次はここも調査すんじゃない、じゃけ市全体の交通体系のアンケートをとって、また松田さんがへ理屈、アンケート、そんな話じゃない。こういうことをやるんですよということも入れてほしかったということを僕が言ようだけ。そこんとこちょっと答えてください、教えてください。

それから、市長もそれから加藤さんか、あなたちょっと言葉遣い気をつけにやおえんで、これは一般的なオールドニュータウンとかというてな、山陽団地がオールドニュータウンになったような言葉になったら、この間の話じゃねえけど、どっかの議員さんが差別発言じゃというて、市長の差別発言出たわな、文書配ったわな。書類を山陽団地のほうへ配って、僕らももろた。そういうことと、オールドニュータウンっていうたらこういう国の制度の名前、こういう制度だからこうですよというて何かせなんだら、ここだけまた捉えて、友實市長がオールドニュータウンじゃ、差別した山陽団地というてまたなるよ、気をつけなんだら、僕は要らん心配じゃ、そんなこと心配してくれな、わしが対応するんじゃないというんならそれでええと思うけど。

ちょっとさっきのこと、もしわかる範囲でどっちでもええ答えてください。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 私のほうから、今後の見通しについてと今回の機会についての経過的なものを説明させていただきます。

まず、自動運転のシステムそのものはまだまだ完成の領域に達していないということもあって、実用化というて何年後ということ具体的には申し上げることはできません。でも、近い将来実用化を目指して、各メーカーも含めて、日本のトップ企業等が研究を進めております。

そして、今回のこの機会でございますけども、かねてからこの自動運転の実証ということは、先ほども言いましたような団地問題等に絡めて検討するところが、全国でも例をまだ見ないということもあって、赤磐市が全国に先駆けて手を挙げていこうということで、何とか実現できないかということできざまな方面に打診をしたりしました。なかなかこれについて、じゃあやりましょうというような返事は返ってきておりませんでした。唯一、今回のこの車両が協力を承諾してくださったので、じゃあこれを具体的に進めていこうということで進めてきました。

しかしながら、この車が全国に、先ほどの説明もありましたように、何台もあるものじゃございません。日程がずっと詰まっております、今回御提案の日程であれば協力できるということで、唯一この日程で実現できるということから、今回のお願いにつながってきた状況でございます。

そういったこともありまして、まことに説明不足でございますし、まことに急な話で御迷惑

をおかけしますけども、そういった経緯も御理解の上、適切な判断をお願いしたいということ
でございます。よろしく申し上げます。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 先ほどの事故が起きたときの責任の所在ということについて説明させていただきます。

これは警察との協議の中でも話が出ました。道路交通法上、今回実証実験の中で、もし仮に
実証実験車両が事故を起こして物損、人身等の事故が起きた場合、その責任の所在はドライバ
ー席に座っている今回のオペレーターが全責任を負うという形で警察のほうと協議をしており
ます。

基本的にドライバーが通常の事故という形をとると、事故の責任を負うということは道路交
通法上の形と変わっておりませんので、今回実験のほうでもドライバー席に人を座らせるとい
う意味の一つが事故の責任をとるという意味も含めております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待ってよ。市長、今言ようる、じゃ僕がさっきから言よ
うる、どうしてもこういうことがやりたかって、道路交通法の見通しは立たんが、モノレール
も立たんのじゃけ、いろいろ立たんのんじゃから、汽車でも列車でも立たんのじゃから、セミ
オートマぐれえじゃったらできるかもしれんけど、いろいろある中で、自動運転もあるから、
とりあえずこういうことをやりてえという気持ちがあって、これに出てきたんが日にちがとれ
なんだからこうやるということは理解できた。それじゃったら、最初からそう説明してくれり
ゃええ。そうしてくれたらまだわかりやすい。

それからもう1個は、よそがしょうらんけうちがする、うちがせにゃおえんことは子育て1
番にせにゃおえんが、ぎょうさんあるんじゃ、300万円かけて何らかの成果がなかったらいけ
ませんよということじゃ。PRじゃ、赤磐市の山陽団地がやったで、オールドニュータウンで
やったでというて、そんなんが出たからというて何の意味はねえはずなんじゃ。今そう思う
た。まあ、それはそれで考え方じゃから、将来的に見合うてくるんじゃったらやりゃええ。

ちょっと言うた、他地区はどうするんならというたら、他地区もしていくというたらできり
ゃせまあ。この今の状態、詰まっとしていきようたら。また300万円かける、専決かける、で
きんがな。これ言うたが、他地区もやっていかなおえんというて。できんがな、これ。一連の
一発でこれを終わるん、これ山陽団地やってみて、捨て銭かええ銭か知らんけど、300万円や
ってみるんじゃというだけで終わるという話じゃったらわかるけど、他地区もやることは不可
能なことじゃろ、できまあ。他地区できるんじゃったらええ。

それからもう1個、事故の場合。事故は、市長、山陽団地の弱者が乗っとして、実証で
30人、その1日のことじゃないこれから全体のことじゃけん。もし乗って事故して、もし人身

があつたりしたら、そりゃあ物損はええよ、人身やこうじゃ、そりゃもう赤磐市が、物損でもじゃ、赤磐市が責任を持たにやおえんようになる、そりゃ持たんでもええという、オペレーターがやりますよ、そんなことは不可能じゃと思う。そのことはええんじゃけど、他地区のことだけちょっともう一遍教えてください。詳しい話は、できるできんの。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 他地区の件につきましては、今後自動運転の車両につきましてさまざまな種類、先ほど示させていただきました4種類があります。今回、国土交通省のほうでは、道の駅を中心とした中山間部における実証実験という形で、そういう形で実証実験を今国土交通省でして……。

○委員長（北川勝義君） 道の駅はねえがな、赤磐には。

○建設事業部参与（加藤孝志君） 赤磐のほうでも、その道の駅がないにしても、ある一定の拠点というものを中心に中山間部の検討というのは、今回の国土交通省の実証実験の結果ないしはその手法を用いて検討することは可能と考えております。

また、他地区さまざまなエリアについて、同様な高齢者に対する交通弱者の問題、要は車両の運転技能等の問題というものは今後出てくると思いますので、この技術を使っていきたいというふうに思っております。他地区、どういう形で今後他地区について実証実験ないしは導入していこうというように検討するかというのは、今後の課題にはなっております。これも含めて、今後検討していきたいというのが考えであります。

○委員長（北川勝義君） わかりました。市長、出しゃばったことを言うけど、岡山市ぐれえでもせんのに、ぼっけえ出しゃばって、こんなせんせばってやらんでもええんじゃねんかとほんまに思うて。よろしい。

永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） これを見る限り、自動運転車両の走行実験やないかなというふうを感じるんです。要は、300万円使って30人の試乗会をするっていうふうになると、一般的に考えると1人10万円の試乗会ですと。試乗会して何がいいのか悪いのか、何がどうなのかというのがこれで見えるのかなというふうに僕思うんです。

もしもこれやるのであれば、ぜひ社会実験として、走行実験じゃなく社会実験として、どこで人を乗せてどこでおりて、どうしたら利便性があって、山陽団地の住民に対してこんな利便性がありますよ、こんな満足度が上がりますよというふうな実験であれば、300万円の血税を使う必要はあると思うんですけれども、1人10万円で試乗会してああよかったって終わったら、本当に税金の無駄遣いじゃないかなというふうに思います。ぜひ、そういうふうにしていただければと思います。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 御提言ありがとうございます。この日程もでございますので、今の委員の御意見も踏まえてこれから実施に当たってのプランを策定していきたいと思っております。そういった目線を持って臨むことは大いに重要だと思います。ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） 永徳委員、よろしいか。

○副委員長（永徳省二君） はい、結構です。

○委員長（北川勝義君） 僕はな、市長、そんな余りええ格好な話せられな、できもせん話をしょうて、僕はこれやりょうて、たまたま山陽団地でやって次は吉井でもやってみてんじゃ、是里やってみてんじゃという計画、次はネオポリスやるんです、こういう計画があったらええんじゃ。ねんじゃから、余り、言われたけど費用対効果、1人10万円、費用対効果、そんなこと、こんなもん費用対効果あるわけがねえ、全然見通しがつかん、補助金もつき、やりやあええが、珍しい、市長も名前が、赤磐市の友實というたらこういうことやったいうて有名になりてえけんやるだけぐれえのもんじゃろう、今の指定管理の民間委託の給食センターと五十歩百歩の話じゃろ。

やってみりやええけど、これは命にかかわったこと、事故があったから僕は命のことを言うだけで、ねえけ1日じゃからまあええと思うとんじゃけど。余り、次のできるところがあるんじゃったらええけど、可能性のねえのに大風呂敷を広げたらいけんで、今永徳さんが言うたように、どこで乗っておりて、利便性があるやこう、じゃったら山陽団地のこんなところよりもっともっと狭えとこぎょうさんあらあや、走っちゃりんせえ、坂が多いとことか。そういうとこ走らうらんで、ええとこ走って、せえで今度ゆめタウン何で決めたん、何でマルナカに行かなんだんな、聞きたかったりする場合もあるんじゃけどな。もうええんじゃけどな、極端な話で言い出したら切りがねえから言わんけど、これも赤磐市の売名行為でやりてえというんじゃったらそれも一つの方法じゃけど。将来的になるかも、絶対に僕は市長、これは言うとか、これがなってやったら、将来的に自動運転がなったときにはまたテストをしてやらにやいけません。不可能な。ええ例が、筑波のガスというて地下埋設しとんのが、九州のオランダ村にしとんのも、あれはそれがしとんのはそこの地下から地下のガス使う、いろいろ採掘をかけてやって、ここにするときにはまたそれをすぐ使えるんじゃねえ、ノウハウまた変えにやおえん。そのときには、3カ月後とか2カ月後とかにできるんじゃったらええよ。3年後、5年後というたら、また新しい調査せにやだめですわ。それ絶対こんなこと、流れが変わってきょうるから、永徳さんの言うことを参考にすりやええんじゃけど、それをきょうはします言うたんじゃけえ、費用対効果する言うたな。してもらわにやおえんよ。その結果を、こういうことになったというのを、今度は産業建設委員会だけでええ、ちょっと待って、もう終わる。産業建設委員会だけで簡単にこうなりましたというて、我々にもくれにやおえん、こう言うたことを。それはもうできますな。

○議長（金谷文則君） ちょっと。

○委員長（北川勝義君） はい。

○議長（金谷文則君） いろいろ話の中でどんどん進んだ話になっとんですけど、前からこういうことを考えとるような今答弁をされるんだけど、産建の委員会では一言もこういう話もなくて。

○委員長（北川勝義君） そりゃ議長と話したんじゃろ。

○議長（金谷文則君） いやいや、一切話を聞いていないことが。専決をするということは、専権事項だから、そりゃおやりなさいという話でやっとなんであって、今の話の中でどんどんこういう膨らましたやり方を考えたということを使うのであれば、当然産建の委員会の中でちゃんと話をしてもらって、こういう計画があるからこういうふうにお金を使うということをやっついていかないと、産建の委員とそれから議会を本当にばかにしとんかと私は今聞いとんですけど、今回はこういうのをやりますという御報告だから、そっから先の話はできませんけど、とりあえず議長としても、それから産建の、ここには関係ないかもしれませんが、委員としてもちょっとあったことがありましたので、今のように申し上げました。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。産建のことはええんじゃけど、こっちにも報告すんじやったら結果をこっちにも言うてもらわにやおえんしということと言よんじや。

それだけ市長、報告してください。産建だけやられたんじやたまったもんじやねえし。せえでも考えがあって、急に思いついたんじやろ。本当のこと言われ、おめえ、急に思いついたんじや、目新しゅうやってみたかったんじや。

○委員（下山哲司君） いつまでやるん。

○委員長（北川勝義君） もう終わるよ。

議長の言われたことで、やり方があるんで報告だけは、議長、これも議長が常任委員会へ報告せえ言うたんじやけ、議会のほうからそれだけは、議長、それだけは確約とって。

○議長（金谷文則君） 当然、3つの委員会のほうでお話をするわけですから、経緯それから結果報告をいただくように、私からもお願いをするようにいたします。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○総務部長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、前田部長。

○総務部長（前田正之君） 済いません。来月の……。

○委員長（北川勝義君） ええちゃ、要らんことを言うてくれんでもええ。要らんことをちゃあちゃあちゃあ言うな、おめえ。そんなら、おめえがせえ。違うか。

○総務部長（前田正之君） お願いします。

○委員長（北川勝義君） 終わりゃあへん、何でそんなことをおめえに。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ終わりたいと思います。

この委員会の中で、ほとんどある人はねえと思うんじゃないけど、不規則な発言があったり、何かあったのは委員長の権限で削除させてもろうたり、訂正させていただきますんで、御了承願いたい。それから、名前が出たとかというのは削除させていただきますんで、いつものことですけどよろしゅうお願いします。

それでは、これで終わりたいと思います。

閉会に当たりまして、内田教育長より御挨拶願いたいと思います。

○教育長（内田恵子君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、内田教育長。

○教育長（内田恵子君） 本日は事業の進捗状況の報告につきまして手順それから説明等について至らないことが多々あったことは大変申しわけありませんでした。今後改善に努めてまいりたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございました。

これで終わります。

皆さん本日は大変御苦労さまでした。

委員会を閉会します。

午後0時39分 閉会